

第23回横浜環境活動賞 第2回審査委員会 会議録	
日 時	平成28年2月23日(火) 13時00分～17時10分
開 催 場 所	関内中央ビル10階大会議室
出 席 者	戸川孝則委員長、篠木幹子副委員長、磯崎保和委員、川崎あや委員、北村亘委員、為崎緑委員、若林史郎委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開(傍聴者なし)
議 題	1 審査委員会の進行等について 2 プレゼンテーション及び質疑応答 3 生物多様性特別賞審査 4 受賞候補者の決定
決 定 事 項	1 第23回横浜環境活動賞受賞候補者は、以下のとおりとする。 (1) 市民の部 ア 大賞 新治市民の森愛護会 イ 実践賞 I LOVE YOKOHAMA【横浜】 大通り公園水の広場愛護会 久下勇次郎 鶴見「みどりのルート1」をつくる会 戸塚桜セーバー 特定非営利活動法人 ホタルのふるさと瀬上沢基金 横浜サンタプロジェクト実行委員会 (2) 企業の部 ア 大賞 イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北 イ 実践賞 石井造園株式会社 株式会社大倉物産 京セラコネクタプロダクツ株式会社 高梨乳業株式会社 日本電技株式会社 横浜支店 株式会社ブリヂストン 横浜工場 株式会社横浜ビール (3) 児童・生徒・学生の部 ア 大賞 横浜市立舞岡中学校 科学部 (4) 生物多様性特別賞 横浜市立舞岡中学校 科学部
議 事	開会 (事務局) 委員の紹介。 「横浜環境活動賞審査委員会運営要綱」第5条により公開とすることを説明。「横浜環境活動賞審査委員会運営要綱」第4条第3項により、委員の過半数の出席が得られているため、成立していることを報告。 1 審査委員会の進行等について (戸川委員長) 審査委員会の進行について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 委員には、事前に応募書類をもとに審査をしていただきました。本日は、応募者のプレゼンテーション等をもとに、受賞候補者の最終選考を行っていただきます。

これより、応募者にプレゼンテーションを行っていただき、プレゼンテーション終了後、質疑応答を行います。審査委員は、各応募者の質疑応答が終わるごとに、お手元の事前採点表の点数を修正してください。採点終了後、事務局が採点表を回収し、集計します。25点満点中平均点15点以上を実践賞の候補者とし、各部門の最高得点を大賞の候補者とします。

生物多様性特別賞については、事前審査で委員から推薦のあった応募者について討議していただきます。討議後、ふさわしいと考えられる応募者を1名、選んでいただきます。

審査終了後、部門ごとの点数一覧及び特別賞の審査結果を確認し、受賞候補者を決定していただきます。

プレゼンテーション及び質疑応答の流れ・注意事項を説明。プレゼンテーションは3分間、質疑応答は5分間とします。

(戸川委員長) 次に、川崎委員から審査について提案があります。川崎委員、お願いします。

(川崎委員) 市民の部で応募されている横浜サンタプロジェクト実行委員会の審査についてですが、横浜サンタプロジェクト実行委員会の事務局になっているNPO法人は、私が所属し、理事を務めているNPO法人です。審査の公平性の観点から、私は横浜サンタプロジェクト実行委員会の審査に加わらず、ほかの委員の審査に委ねたいと思います。

(戸川委員長) 川崎委員から提案がありました。通常は、7名の委員の平均点で審査しますが、横浜サンタプロジェクト実行委員会は6名の委員の平均点で審査することになります。委員の皆様いかがですか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) では、「横浜サンタプロジェクト実行委員会」の審査は川崎委員以外の委員で行うこととします。

## 2 プレゼンテーション及び質疑応答

### (1) 市民の部

#### I LOVE YOKOHAMA【横浜】

##### <プレゼンテーション>

名前のおおりに、SNSを通じて、様々な横浜好きが集まって活動している団体です。特に20代から40代のボランティアをやったことがない人が多く集まっていて、地域の活動にアクションしているところが特徴です。主にキャンドルとクリーンアップのイベントを行っていますが、共通点は横浜の街をきれいにすることです。「きれい」をキーワードに、横浜の街を盛り上げようと活動しています。ごみを拾ったり、キャンドルを飾ったりして、地元の街をきれいにすることによって、日頃見ている街が生まれ変わり、そこに感動、楽しさが生まれます。10年以上活動していますが、任意団体として続けてこられたのは、行政と共催でイベントを行っていることによると思います。任意団体で共催イベントというのは、全国的にも珍しいそうです。予算に関しても、身の丈にあった運営方法をとっているため、運営が続けられています。ボランティア経験ゼロの若い世代が、横浜の地域活性にアクションをしていく最初のステップの団体であることが特徴です。

##### <質疑応答>

(為崎委員) イベントに参加した人たちを、日常での環境意識に結び付ける工夫や成果を教えてください。

(応募者) 私たちの役割は、ボランティアの経験が全くない人が、まずアクションし、地域に貢献して楽しいと思ってもらう第一のステップだと考えています。日常への定着化のひとつとしては、キャンドルやクリーンアップのイベントを毎月行っていることです。もしもっとやりたいというメンバーがいれば、コラボレーションしている町内会や団体を紹介して、スタッフとして送り込んでいます。私たちは日常的に活動する人をストックしておくのではなく、最初の窓口の役割をしています。

(磯崎委員) 若い世代の方が多いいいことですが、どのように集めているのですか。キャンドルは、どのようなところでやるのですか。また、拾ったごみの処理方法を教えてください。

(応募者) 人集めについては、ただごみ拾いをするのではなく、必ず楽しさ、面白さの演出を入れています。桜のシーズンは大岡川、夏は海、秋はハロウィンの格好で、冬はサンタの衣装を着てというように楽しくしているため、インターネット上でごみ拾い経験ゼロの人も入ってきます。

ごみ処理については、行政や企業とタイアップしているため、軍手やごみ袋、ごみの処理などはすべて対応していただいています。このため、予算はかかりません。

キャンドルは、主に町内会・商店街や、キャンドルカフェ・スマートイルミネーションなどの大規模イベントで活動しています。町内会・商店街では、年配の方々に許可や予算組みをしていただき、若手の私たちが当日運営するというような役割分担をしています。キャンドルカフェでは、運営に参画しています。役割分担をしながら、無理のない運営方法をとっています。

(川崎委員) フェイスブックに8,000人以上が登録していて、常時活動している人は約100人ですが、登録しているが活動していない人たちに対するアプローチを教えてください。

(応募者) インターネットのネットワーク上では、全体で10万人近く登録されています。10万人に対して、100~300人の参加では少ないというのはご指摘としてあると思いますが、インターネット上では、まず母数が大事で、その中から一人ずついかに拾っていくかということになります。インターネットの広報などを通じて、盛り上げています。

#### 大通り公園水の広場愛護会

##### <プレゼンテーション>

環境美化運動に取り組んで、7年目になりました。大通り公園水の広場で活動しています。この広場は、飲酒する人や寝転んでいる人、トイレをしている人がいて、ごみも散乱している状況でした。最初は見るに見かねて一人で始めました。花壇という状況ではなく、一輪一輪植えていきましたが、土も固く、埋め立てた石やがれきがあって困難でした。次に、仲間たちの応援が入りましたので、公園愛護会を作って、それから本格的に活動を始めました。掃除、花壇の整備、除草、水撒きをしてきました。市民を巻き込んで活動をしてきて、やっときれいになってきました。しかし、まだまだです。試行錯誤していますが、今後は行政とともに、市民を巻き込んで、どうしたらきれいになっていくか、考えたいと思います。

##### <質疑応答>

(北村委員) 今後、行政にどのような働きかけをしていきたいですか。

(応募者) 私たちがやれることはすべてやってみました。その経験で言うと、公園を全体で考えていく必要があると思います。私たちがやっていきたいというよりも、逆にお手伝いをさせていただきたいです。私たちの現場からの提案をお知らせし、現実を知ってもらい、一緒に活動していきたいと思っています。

(磯崎委員) 町内会との関係はありますか。

(応募者) 町内会に働きかけはしています。ちらしを複数回ポスティングしましたが、

反応が弱かったので、市と一緒に呼びかけをしないと、私たちだけでは無理があると感じています。

(篠木委員) メンバーを増やして活動を広げていくために、どのような工夫をしていますか。

(応募者) 増やしていくのは、まず難しいと思います。今まで苦しくてつらかったです。どうやったら増えるか、どうやって市民を巻き込んでいけるかを、逆に行政に尋ねていきたいです。

(川崎委員) 地域にお住まいになっている方を巻き込むのも大事ですが、公園にいる人たちを無理なく巻き込んでいく、新しい巻き込み方の可能性を持っていると思います。

(応募者) その点については成功しました。地域住民よりも公園にいる人たちが応援してくれたので、やってこられました。

#### 久下勇次郎

##### <プレゼンテーション>

私は学校、子どもたち、蝶が好きで、その3つが重なって作ったのが、バタフライガーデンです。バタフライガーデンは、食草園と花壇からなっていて、食草園には蝶の幼虫が食べる野草や柑橘類、そのほかの木を植えています。食草園の前には、毎年モンシロチョウのために、キャベツ畑を作り、隣の花壇には花を植えてあります。このようにして、蝶が住める環境を整備しています。最近、この庭が保育園、幼稚園の散歩・見学コースになり、園児たちに、いきものと植物との関係を説明する環境教育の場になっています。これからもずっと続けていきたいと思っています。このバタフライガーデンは、珍しいものだと思うので、ほかに作りたいというところがあったら、模範となれるように努力していきたいです。飛来した蝶は、写真を撮って、学校で作ったひょうたんに貼り、標本のかわりにしています。

##### <質疑応答>

(為崎委員) 今の活動のノウハウやコツを、どのように引き継いでいこうと思っていますか。

(応募者) それが一番の悩みです。リーダーとして後を引き継いでくれる人を探しています。いろいろな人に声をかけていますが、価値観を共有できる人でないとなかなかできないと思います。

(北村委員) 個人での応募ということで、特に持続性の評価が難しいと思いました。久下さん個人として、これからどのくらい頑張っていきたいのか教えてください。

(応募者) あと4～5年か3～4年はやれると思います。その間にうまく引継ぎができるといいと思っています。

(磯崎委員) 各地にシニアクラブがあり、組織的に大きくなって、花を植えるなどいろいろなことをしています。そういう人と連携してはどうですか。

(応募者) 植物が好きの方はたくさんいますが、蝶に興味をもっている方でないと難しいと思います。ただ、お母さん方を中心に、安定して一緒にやってくれる人が増えてきているので、ありがたいです。

#### 鶴見「みどりのルート1」をつくる会

##### <プレゼンテーション>

当会の特徴は3つあります。1つ目は、国道沿道の民有地の緑化であること。これは、全国的にも事例が少ないかと思われます。2つ目は、法規制では緑化が難しいと言われている商業地域の緑化であること。法規制によらない緑化を進めてきました。3つ目は、市民が事業者呼びかけて、横浜市と協働で助成をいただいて活動を進めてきたことです。また、法人と個人で構成されていることも特徴だと思います。私立学校では、国道

面の擁壁を緑化したことによって、子どもたちが緑に感動し、地域緑化活動に参加することからの学びが大きくなっています。教育活動に生かしていくことで、緑化活動の維持にも寄与できると思っています。外食産業は、国道の周りによく出店していますが、その町にあとから入ってきた者なので、地域の皆さんと仲良くしないと商売はうまくいきません。そんなとき、緑化の話があり、市民の皆さんと仲良くできる場だと思い取り組んでいます。

<質疑応答>

(若林委員) 今後の継続、維持が問題かと思います。どのように考えていますか。

(応募者) 最初は事業者がなかなか事業費を捻出できませんでした。しかし、活動の結果、事業をしている店舗では、市民とのコミュニケーションがとれ、サービスマインドがあがったそうです。それによってお店の売上げがあがり、事業の採算性にも響くということを、本社に認めてもらい、緑化の費用が少しずつ出てきています。緑化の維持を心配していましたが、効果によって、これが生まれてきました。私立学校では、環境学習が主要なテーマになるので、それへの費用投資という意味で、意義あるものとして持続性がある管理活動ができると考えています。また、沿道にはチェーン店が多いので、ほかの店舗にも波及させたいという事業者の声もあり、似たようなかたちで店舗展開されてきているところもあります。

(篠木委員) デザインや町を考えるとときに何を重要なこととして緑化を進めていますか。

(応募者) ばらばらに店舗の好みようになっては意味がないので、まとまって統一性のある緑を展開することにしました。シンボルツリーは、地域に根差したケヤキとクスノキにし、なるべく高い木を植えること、そして足元には草花で目を楽しませるという統一性のある緑をテーマにやってきました。それが皆さんにまとまった緑と感じていただいているようです。国道ですが、市民の皆さんからいい散歩道ができたと言っています。

(為崎委員) 統一的なものを維持していくには、全体の統括が重要になると思います。中長期に見たときに、この役割はどうなっていますか。

(応募者) この活動に感動した造園会社の方が、ボランティアで月1回2名ずつ来ていただいています。また、元々のデザインをやっていただいた方たちも、定期的に見ていただいていますので、続けていけると思います。

(為崎委員) 全体を統括する核の部分は、安定的に確保されているという理解でいいですか。

(応募者) 近隣の事業者の方なので、活動には無償で来ていただいています。近隣の状況としてみていただいています。

#### 戸塚桜セーバー

<プレゼンテーション>

10年前、戸塚区役所が開催した桜セーバー養成講座に集まった桜好きのメンバー30人ほどで、区民が守り育ててきた柏尾川の桜を未来にも残したいと会を発足しました。メンバーで試行錯誤しながら、会の組織づくりから始まり、全体計画も何度も話し合ってきました。私たちの活動は、とても地道な活動です。桜の木を剪定するなど大きな作業はできません。しかし、草取りや根を守る活動をすることで、桜は10年後、20年後とても元気になるという夢をみられる活動です。そして、できない部分は行政などいろいろなおところからご支援、ご協力をいただき、連携をとりながら活動しています。活動により、10年前、根元の土が固かったところが、現在はお花畑になっています。そのおかげで、区民の方には、桜だけでなく、四季折々の花を楽しんで、親しんでもらっています。メンバーがそれぞれ特技を持っており、ポストカードを作ったり桜の魅力を発信したり、ホームページを立ち上げたり、みんなで協力して活動を進めています。

<質疑応答>

(北村委員) 今後も桜を中心に活動していくのか、それとも何か広がりをもってやりたいものがあるか聞かせてください。

(応募者) メンバーには、柏尾川の桜を守っていきたいという思いがあります。その環境を守っていくためには、広く言えばまちづくりに関わっていかないといけない、桜だけではなく周りの自然も大事だということで、落ち葉で堆肥づくりをしたり、小学校に出向いて環境活動を一緒に体験したり、区役所の協力を得て桜に親しんでいただく機会を設けたり、魅力を発信しています。子どもたちが家庭で柏尾川の桜の魅力を話すことで、より関心をもってもらい、それが桜の保全活動、環境保全活動、さらにはまちづくりにつながっていくと思っています。

(川崎委員) 10年目を迎えるということですが、安定期に入った活動開始後数年からこれまで、最近5年ぐらいの変化を教えてください。

(応募者) 当初約30人で発足しましたが、今も約30人です。しかし、当初からいるメンバーは半分程度になっています。増えた人は、私たちの活動を見た人や桜の魅力を伝える講座に参加した人などが仲間になっています。メンバーは変わっていますが、広がりを見せていると思います。

(為崎委員) 知識や技術の向上に努めているところが魅力的だと思います。学びたい人を取り込む、ほかのところと情報を交換し合うなど、より広がりをもたせていく考えはありますか。

(応募者) 10年前からの会員の夢は、戸塚の桜のリーダーになることです。地域にある桜について質問がくることがあるので、技術を向上して、伝えることを担っていきたいと思います。いろいろなところで勉強していますし、いずれまた講座も開きたいと思っています。

新治市民の森愛護会

<プレゼンテーション>

行政と地権者と一般市民の三者が一体となって、愛護会を発足しました。はじめの頃の森は、大変荒れており、手作業で苦勞の連続でしたが、16年経った現在、刈払機やチェーンソーを保有し、効率よく作業を進めています。登録会員は現在83名で、活動日には毎回40名以上が参加しています。次世代に引き継ぐ豊かで魅力ある森づくりを目標に、一生懸命、楽しく活動しています。老いた森を若返らせる取組として、植林地、萌芽更新地を作ってきたのも特徴のひとつです。道志村の水源地保全活動に参加し、そこで習得した間伐作業の体験が、市民の森の整備に役立っています。学校林植林地は、近隣の4つの小学校の校外学習の場となっています。季節ごとにこども森の日のイベントを開催し、一般市民が100名ほど参加しています。また、工房を持っており、作業で出た廃材、発生材で市民とともに作品を作っています。作った作品の一部は、イベントなどに出展し、森のPRに努めています。

<質疑応答>

(篠木委員) 会員の大半が高齢者とのことですが、活動をさらに発展させるため、次の世代の人たちを取り込んでいく工夫を教えてください。

(応募者) 学校林やこども森の日のイベントで、子どもたちに森に親しんでもらっています。一緒に来た親や散策に来た人など、私たちの活動を見て入りたいと言ってくれる人がいます。今年も7人が入会し、活動は継続していけると自負しています。

(若林委員) 横浜市との委託管理契約は、継続的に受託できるのでしょうか。

(応募者) 67ヘクタールの敷地のうち、6割強は横浜市による買収が済んでいます。横浜市が存在する限り、私たちの活動も続くものと思っています。

(北村委員) 10年前に横浜環境活動賞を受賞されていますが、受賞後の10年間に新しくできたことを教えてください。

(応募者) 10年前は道具も何もなく、個人のはさみやのこぎりで作業をしていました。しかし、市からのお金で少しずつ道具を買い、現在は楽しく活動ができています。会員の募集では、道で会った人、散策に来た人に声をかけています。私たちが楽しく活動しているのを見ると入ってくれます。また、保全管理計画を作成しました。67ヘクタール全体の構想図であり、これに従って活動を進めています。

#### 特定非営利活動法人 ホタルのふるさと瀬上沢基金

##### <プレゼンテーション>

身近な自然を守ることが地球環境を守ることと考えて、平成20年に活動を開始しました。主な活動は、クリーンアップ作戦とガイドツアーです。これまで延べ90回、約1,800の方が参加しています。クリーンアップでは軽トラックで約20台分のごみを搬出してきました。当初は、足を踏み入れることができなかった森が、今はすばらしい場所になっています。今後、土地の取得ができれば、さらに範囲を広げていきたいと思っています。クリーンアップやガイドツアーの参加者は、地域の住民が主体となっています。円海山城自然調査会と昆虫調査を随時実施しています。学校とは、周辺の掃除活動や夏休みの川の生き物調査、文化祭への出展などで、連携、協力をしています。活動の特色としては、イベントへの出展など自然を守る啓発活動を地道に行っていることです。緑地を破壊させないため、土地取得を目指し、ナショナルトラスト基金を作っています。寄付は延べ13,000人以上の方から900万円以上が集まっています。

##### <質疑応答>

(篠木委員) 環境保護運動は、地権者や行政などいろいろな方との関係が複雑に絡み合っているの、それによって影響を受けることもあるかと思います。応募用紙にも、市が一部の開発を認めようとしていることが大変残念だと書かれているので、開発に対して市と見解が異なることはあるかと思います。そういう中で、市の環境活動賞に応募されてきた理由を教えてください。

(応募者) 市にもいろいろな考えの職員がいます。これを守らなければいけないということが、いろいろな分野の市の文書に出ています。県や国にもそのように考えている方がいます。私たちは、ここにはこう書いてあって、これは大事だということを訴え、単なる反対ではなく、行政の方も一緒に守っていきたくて考えています。

(戸川委員長) 関連して、事務局に質問です。市の判断と異なる活動をしているということで、この応募を環境活動賞の候補として扱っていいか、確認させてください。

(事務局) 日頃から環境活動をされている団体の皆様からは、市の方針や事業に関して、賛成だけではなく、反対や修正も含め、様々なご意見やお知恵をいただいています。市の方針と異なるからと言って、この環境活動賞の候補としてはいけないというものではないと考えています。そうした表彰は違うのではないかとのご意見ももしかしたらあるかもしれませんが、それにつきましては、今後の課題とさせていただきます。この審査委員会の場では、審査基準に基づき、ご判断をいただければと思っています。

また、開発計画については、今後都市計画法の手続にのっとり、広く市民のご意見を伺いながら、都市計画審議会で審議をいただくことになっていますので、この場では開発計画自体の是非を問うものではないと思っています。

(戸川委員長) では、この委員会では、皆さんの活動が今回の応募に対してどうかということの評価します。

(川崎委員) この土地を開発するのではなく保全することについて、地域の方たちにどのように共感を募っていますか。

(応募者) 一般の方が参加されるガイドツアーのときに、現地を見ながらPRしています。また、パンフレットを近隣にポスティングしたり、ホームページやフェイスブック、ツイッターでPRしています。

(為崎委員) 開発はどうかかわからず、基金の使い道もはっきりしていない、不安定な要素が多いと思います。今後、不安定な要素に対応しながら、活動を弱めないための考えはありますか。

(応募者) 横浜市は開発を決定しているわけではありません。私たちは、開発は行われたいとだけ考えています。もし開発になった場合にどうするかということは、その時に考えることにしています。

(為崎委員) 基金の使い道はどうですか。

(応募者) 保全することになれば、その買取りのために、横浜市に寄付することを望んでいます。

(北村委員) 目標金額は最終的にいくらぐらいですか。今、どのくらいの段階なのでしょう。

(応募者) 900万円はまだ1%です。もし保全になれば寄付すると企業の方々に言ってもらっているので、50億でも100億でも集めるつもりで活動しています。

#### 横浜サンタプロジェクト実行委員会

##### <プレゼンテーション>

横浜に笑顔を届けることを目的に、7年間活動してきました。ひとつの企業ではできないことを多くの企業を巻き込んで、大きな力として活動していこうと始まったプロジェクトです。NPOのサポートを受け、実行委員会形式で続けてきました。1年に1度、12月にイベントを行っており、清掃サンタ、訪問サンタ、広場サンタの3つに分かれて活動しています。清掃サンタは、活動が始まった2009年度から続けている活動です。当初の参加人数は30~50人でしたが、次第に増え、2015年12月には270の方が参加してくれました。参加される方々には、みなとみらい地区の清掃活動を行うことで、町に意外とごみが落ちていることを知り、町をきれいにすることの達成感を感じてもらっています。実行委員会のメンバーである企業やNPOにとっては、一緒に社会貢献活動を行う仲間ができることが一番の魅力であり、企業の社会貢献活動への後押しになっています。1年に1度のワンデーイベントですが、いろいろな活動を1年間通して、もっと盛り上げていくことが課題だと思っています。

##### <質疑応答>

(磯崎委員) 集まるのはどのような方ですか。

(応募者) 実行委員会の事務局は、NPOアクションポート横浜が務めています。実行委員会メンバーの構成は、約8割が企業、2割がNPOです。横浜市内の企業に参加していただいています。

(磯崎委員) イベントはどのようなことを行っているのですか。

(応募者) 今年のイベント全体には723名の方にお越しいただきました。広場サンタは、パシフィコ横浜の円形広場で、ブース出展やステージで披露する活動、訪問サンタは、施設の子どもたちにプレゼントを届ける活動を行っています。

(磯崎委員) 費用はどうしていますか。

(応募者) 企業からの協賛金を集めて活動しています。

(戸川委員長) 実行委員会には多くの企業が入っています。どのようにしたら企業の方々を巻き込めるのか、苦勞やポイントがあれば教えてください。

(応募者) 実行委員会の企業には、口コミで入っていただいています。当日参加できる清掃サンタに参加して入ってみたいと来られた方や、口コミで広めていただいたということがあります。より多く、本日のような場に出ることで、いろいろな方に知っていただくのがポイントかと思っています。

(若林委員) サンタからの変身はありませんか。夏サンタなど、ほかの季節にはどうですか。

(応募者) 今のところサンタのみですが、今後夏バージョンのサンタが出るかもしれま



せんし、いろいろなことが考えられるかと思っています。  
(北村委員) 様々な活動をされていますが、環境に関するものは清掃サンタのみです。  
なぜ今回、環境活動賞に応募しようと思ったのですか。  
(応募者) 環境活動である清掃サンタは当日飛び込みで参加でき、参加しやすさを追求  
しています。多くの方への普及啓発として、簡単に、そして楽しく参加してもらうた  
めのきっかけを提供し続けるというコンセプトをお伝えできればと思います。

## (2) 企業の部

イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北

<プレゼンテーション>

より快適な毎日をより多くの方々にとというビジョン、そして People & Planet Positive というサステナビリティ戦略を指針に、企業活動をしています。これは、より環境に配慮した商品の開発と販売を行う取組にとどまらず、人と地球両方がポジティブな結果をもたらすという意味も持っています。たとえば、省エネルギーでお馴染みの LED 電球などの売上げから UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) 等に寄付しています。再生可能エネルギーの投資としては、国内のストアにソーラーパネルの設置を進めています。また、昨年 9 月に横浜市と 4 つの柱からなる連携協定を締結しました。省エネルギー対策の推進、再生可能エネルギーの導入と利用拡大、地産地消及び食育の推進、その他の持続可能な社会を目指した取組の 4 つです。実施した取組としては、都筑区勝田団地への LED 電球の寄贈、移動式水素ステーションの導入、地元農家による都筑野菜を使った子どもたちへの食育セミナー、公共交通機関の利用促進としてシャトルバスのルート拡大をしています。引き続き横浜市と連携し、環境に配慮した持続的活動を行っていきます。

<質疑応答>

(若林委員) 行政との連携事業は、他都市では行っていますか。横浜での特徴を教えてください。

(応募者) たとえば仙台などその他の地域でも災害時の協力体制についての協定はありますが、サステナビリティ、環境に配慮した活動に関する提携は、横浜市が初めてです。元々都筑区とはチューリップの球根を緑道に植えるなどの草の根的な活動をしていましたが、今後は、規模を拡大し、より多くの皆様にリーチできるような活動を続けていきたいと思っています。

(磯崎委員) 都筑区は農家が多いですが、農家とは何か行っていますか。

(応募者) 数年前から、都筑野菜朝市として都筑区でとれた野菜を販売していましたが、さらに昨年 11 月からは、お子様に対し、地元農家の方と野菜の作られ方やおいしい調理方法を紹介する食育のセミナーを行っています。

(為崎委員) UR (独立行政法人都市再生機構) の部屋でサステナブルリビングの提案をされていましたが、日常的にサステナビリティの発信をどのように行っていますか。

(応募者) サステナビリティに特化した商品としては、LED 電球や水の量を少なくできる水栓、食べ残しを防止するためのフードキーパーなどがあります。実際に触れていただくため、ストアの中にサステナビリティコーナーを新しく作りました。実際に子どもが見て、どのようにしたら自分もサステナブルな生活ができるのかということを感じ取ってもらえたらと思います。

(北村委員) 今後の商品開発などでやっていきたいアイデアはありますか。

(応募者) 商品開発は基本的にはスウェーデンで行っています。国内の店舗の取組としてはソーラーパネルを導入しており、福岡の店舗では地中熱も利用していますので、自分たちでエネルギーを作っていくということに注力しています。

## 石井造園株式会社

### <プレゼンテーション>

2008 年度から独自の緑化基金を行っており、地域の皆様のために使っています。たとえば、今回の市民の部応募団体への支援や、小学校のトンボ池の修繕やプランターの寄贈を行いました。自然観察会や廃棄するはずの木材でのネームプレート作りなど、地域の小学生への環境教育を行っています。緑化基金で、保育園のビオトープ増設など環境教育の場づくりも行い、子どもたちが生物多様性について学ぶ機会を与えています。市民の方に毎年 500~1000 本ほどの苗木を無料で配布し、緑を広げています。これらの取組は、ホームページや CSR 報告会等を通して、情報発信しています。また、公園再整備工事で排出された CO2 をオフセットしました。そこでオフセットするのにかけた費用と同額を海洋植物の育成を行っている NPO に寄付しました。ついでに、無理なく、達成感のある活動を合言葉に、また地域住民に頼られる存在として、本業を通じた環境活動に地域で取り組んでいきます。

### <質疑応答>

(篠木委員) 緑化基金の使い方はどのように決めていますか。

(応募者) 今日手ごたえを感じているのは、市民の部の応募者の 5 団体と関係性を結べており、私たちの基金が有効的に働いていることです。噂で多くの方が来ますので、仕事に関わった方を優先に、いい活動をしている方を選んでいきます。

(為崎委員) お金で基金を捻出していく活動なので、業績に左右されないかが不安材料としてあります。お金以外の部分で何かやっていく考えはありますか。

(応募者) プロとしての技と知恵、また、道具を無償で提供することもあわせて行っています。基金の原資は、すべての事業の請求書の末尾 3 桁であり、お客様からお預かりしたお金です。それに私たちの気持ちを込め、同額を上乗せしています。請求書が出るたびにお金がたまる仕組みです。

(川崎委員) 環境に配慮した製品や技術開発の欄に書かれているものは、どれほど先駆的な、あるいは御社独自のものなのでしょうか。

(応募者) 落書き消しの溶剤は、生分解する 100%のリモネンを原材料とし、落書き消しに特化したものです。壁面緑化は、当社で構造の特許があります。造園業者が開発したものとしては、全壁面緑化の製品の中で、唯一でした。

## 株式会社大倉物産

### <プレゼンテーション>

私が横浜市に住み始めた昭和 20 年代は、市内の川はごみの川で、車はどこでもアイドリングをし、運転手は飲み物の缶やごみをポイ捨てするというような状態でした。昭和 41 年、会社を設立しなければならない立場になり、約 50 年続けています。会社を作るときに、自然と人を大切にしよう決め、きれいな町づくりをモットーに、そして経済的に豊かな会社になろうと考えてきました。平成 17 年にエコアクション 21 の承認を受けました。今後は、環境経営を軸としていこうと思っています。環境は、共同でやること、そして、教育を受けることを 2 つのテーマにして行っています。共同については、同業者とコラボしようと思っています。

### <質疑応答>

(北村委員) 事業内容そのものが環境活動のようですが、プラスアルファとして行っていることはありますか。

(応募者) ひとつは、年輪型長寿企業の四方よしを考えました。社員よし、お客さんよし、地域よし、そして、自然よしという四方よしの商法でやっていこうと思います。今回の応募は、自然よしの考えに基づいています。それから、学校については、横浜市や横須賀市の学校で、出前授業をやらせていただいています。教育と共同でやっていきたいと思っています。

(為崎委員) 従業員 10 名の意識を統一して環境の活動に向かう工夫と、ストレスを感じずに前向きに環境に取り組む工夫を教えてください。

(応募者) 社長が率先して指導しています。社内ではできない場合には、NPO や同業者の力を借りています。ポイントは小さく発信するけれども、結果は大きな波になるというところですよ。

(戸川委員長) ガソリンの使用量はなかなか減らないものだと思いますが、エコ運転の講義や社員がどのような取組をしているのか教えてください。

(応募者) なかなか難しいですが、仕入れ先と客先を回るときは一度に最短ルートを回る、急発進・急ブレーキはしないなど、常々努力しています。エコカーなどなるべく環境に良い省エネに適した車も選んでいます。

#### 京セラコネクタプロダクツ株式会社

##### <プレゼンテーション>

コネクタの生産・販売を事業として、緑区中山町に本社を置いています。経営理念のもと、社会との共生、世界との共生、自然との共生という 3 つの共生、LIVING TOGETHER をすべての企業活動の基本に置いています。省エネ、CO2 排出削減では、神奈川県和省エネ診断を受けて、断熱の確認、空調室外機への制御機器の設置等を行っています。太陽光発電では、パネルに付着した汚れを除去して、発電効率の低下を防いでいます。グリーンカーテンは、窓ではなく室外機を覆うように育て、空調負荷を低減しました。昨年は横浜市が主催する子どもアドベンチャーで環境出前授業を行い、小学生に自転車を使って LED を点灯させる発電体験をしてもらい、省エネの大切さを学んでもらいました。横浜市の廃棄物交換システムに登録して、廃棄パレットを農園の育苗用として、リユースしていただきました。生物多様性保全では、緑区の新治里山公園を活動フィールドに、公園を管理されている NPO と連携して、自然との共生を学んでいます。太陽光発電とマイクロバブル装置で、里山公園の遊水地における藻の異常発生を抑えています。社会貢献活動としては、歳末助け合い募金と安全で安心なまちづくりです。

##### <質疑応答>

(戸川委員長) 防犯灯の寄贈について教えてください。

(応募者) 2011 年に緑区に移転した際に、周囲の道路が非常に暗く、住民からも暗いという話があったので、京セラ製の LED を使用した防犯灯 4 基を設置しました。

(為崎委員) いろいろなところとつながりを持っていますが、どのようにつながりを持ったのですか。また、つながりを持ったところとはその後も継続的につながりを持っていますか。

(応募者) 積極的に情報を取りにいった結果です。横浜市の情報はインターネットで探しました。緑区新治里山センターについては、横浜市がみどりアップ計画の関係でどのような活動をしているのか調べ、一番近くの団体のところに足を運びました。そこから話合いを重ねて始めました。それぞれの活動がありますが、今も継続的に活動しており、活動の範囲が広がってきています。

(磯崎委員) 緑区との関係はどうですか。

(応募者) 緑区とは、定期的に訪問し、当社にできることがないかやりとりをしています。

(篠木委員) 京セラの森づくり活動で、家族を巻き込むことによる社員の意識の変化や社内での環境の取組への効果を教えてください。

(応募者) 社員の意識は確実に高まっていると思います。日常の会話の中で聞かれますし、花炭づくりでは、部屋に飾って活用するなど喜んでもらっています。それがきっかけで、また次のステップに参加してもらい、いい循環になっていると思います。

## 高梨乳業株式会社

### <プレゼンテーション>

環境の取組の中で、紙パックのリサイクル推進活動について説明します。まず紙パックの特徴は、非常に丈夫なことです。1リットルの紙パックは30グラムぐらいしかありませんが、これで約1キロの牛乳を運べます。ガラス瓶と比較しても輸送効率が非常にいいものです。構造としては、紙の両面にポリエチレンがラミネートされています。繊維が丈夫なことに加え、印刷はこのポリエチレンにのっており、表面のポリエチレンを剥がすと、真っ白なパルプが出てくるので、再生に向いています。しかし、家庭から出される紙パックの3分の2が捨てられているのが現状です。これを業界でなんとかしたいと思い、活動しています。また、紙パックを、段ボールや新聞と一緒に捨ててしまうと再生されないということは、あまり知られていないようです。表面のポリエチレンを剥がす工程を持っている古紙再生メーカーでないと再生できず、異物と同じ扱いで捨てられてしまいます。業界で啓発を行っている中で、独自に何かできないかと思い、3年前から環境未来都市・環境絵日記展に出展し、啓発しています。牛乳パックから取り出した紙パルプで手漉きはがきを作ってもらい、有効な資源だと伝えています。また、牛乳パックははさみがなくても、手で簡単に開ける方法があるので、それを実践してもらったりしています。

### <質疑応答>

(磯崎委員) 紙パックはリサイクルに出すだけでなく、何かを作ったり容器に使ったりできると聞きました。このようなことも行っていますか。

(応募者) 牛乳パックの工作集を業界で出しています。家庭ではまな板代わりに使う方が多いですが、まな板で使った後もリサイクルできますので、リサイクルしてもらいたいです。

(為崎委員) 資料にあるクイズは、まだあまり活用されていないとのことですが、今後の展開についての考えはありますか。

(応募者) 各小学校からの要望で食育授業をやらせていただいております、リサイクルの話もしています。紙パックのクイズは始めたばかりですが、今後はやっていきたいと考えています。

(篠木委員) 牛乳パックの資源化は、自治体によって処理の仕方も異なるので、自治体との関わりや日本の法律まで考えないとうまくいかないように思います。どうお考えですか。

(応募者) これからどのようなかたちで行政を巻き込んで、回収率を上げていくかが課題です。現在は、行政のごみ収集に伺って、紙ごみの組成分析などを行い、データを集めている段階です。その中で、行政と関係をつくりながら、進めていきたいと思っています。

(戸川委員長) 経営層に対して年に1回環境研修を実施とありますが、どのようなことをしているのですか。

(応募者) 外部の講師を呼んで行っています。たとえば、廃棄物に詳しい先生を呼んだり、ISO14001の規格変更の際には、ISO14001に詳しい専門家の方を呼んだりしています。なるべく企業の事例を交えてもらい、経営層が興味を持つような内容に、工夫しながら実施しています。

## 日本電技株式会社 横浜支店

### <プレゼンテーション>

ビルの空調を快適に過ごせるよう、工事やメンテナンスを行っている会社です。自動制御システムの技術を持ち、省エネルギー化を実現し、地球環境問題の解決に貢献する事業展開を進めています。この事業展開をきっかけに、社員の環境意識が芽生え始め、今回の環境活動賞の応募に至りました。事務所のある神奈川区が主体となり実施してい

る「わが町神奈川マナー違反一掃作戦」に毎年社員が参加し、地域の清掃活動のお手伝いをしています。もっと社会貢献活動ができないかと考え、環境委員会を立ち上げ、自主的環境活動の計画を進め、昨年実施しました。参加者とは、環境に対する意識向上及びコミュニケーションをとることができました。自主的な海岸清掃などの環境活動を企画していきたいと思っています。特に注目する活動としては、環境社会検定試験（ECO検定）の取得です。現在50名のうち20名が合格しており、社員全員の合格を目指し、勉強会を開催するなど取り組んでいます。この取組で基本知識を学び、環境意識を高めることで、日常生活の中で環境に配慮した行動ができる考え方を育てています。まずは、社員の意識を高めることが重要と考え、広めていきたいと思っています。また、事業では、特にESCO、BEMSに力を入れています。

<質疑応答>

（北村委員）ESCO事業、BEMS事業に関しては、会社全体として進めているものですか。横浜支店が独自に行っているものがあれば、教えてください。

（応募者）自動制御関係は、2005～2012年の実績では、ESCO事業が10件終わりました。10件中8件が横浜市の建物です。区庁舎や市民病院、研究施設などです。また、ある研究施設は、当社が横浜市から直接受けた案件で目標100%に対して、最終的に約130%の削減効果が出ました。

（戸川委員長）ECO検定の受験を始めたきっかけを教えてください。

（応募者）当社はISO14001を取得しています。ISO14001の取得にあたって、年1回は環境教育を行っていますが、話を聞くだけで環境意識が芽生えてこなかったのが現実です。そこでECO検定の受験を基礎勉強として始めました。ECO検定は、全支店の中で横浜支店だけが実施しています。

（為崎委員）ECO検定によって、社員の意識が変わり、社員からの発案があれば教えてください。

（応募者）今現在、社員からの要望はありませんが、事務局も兼ねた社員が、2年ほど前から年間スケジュールを作っています。官公庁発表の月間取組では、4月はみどりの月間、5月はごみ減量・リサイクルが掲げられているので、毎月1日にその取組事業を伝え、月間をアピールしています。社員の意識が上がっていると実感しています。

（戸川委員長）月1回教育訓練を行っているとのことですが、どのような内容ですか。

（応募者）毎月の安全教育訓練の中で、環境も含めたメンバーを集めて、説明をし、それぞれのメンバーが下に説明し意識を高めています。

#### 株式会社ブリヂストン 横浜工場

<プレゼンテーション>

環境宣言「未来のすべての子どもたちが「安心」して暮らしていくために」を掲げています。達成するために、自然と共生する、資源を大切に使う、CO2を減らすの3に取り組んでいます。特に横浜工場は、近隣に大勢の方々が住んでいるため、自然と共生するとともに、地域共生に力を入れています。環境負荷低減活動の主な取組としては、CO2の排出量、水資源、廃棄物の削減にベンチマークを設定し、どれぐらい減らすのかという目標を立て、実際にどれぐらい減らせたかという状況を把握して行っています。地域貢献活動、社会貢献活動は、地域の方々にブリヂストンがあつてよかったと言ってもらえるように、しっかり活動していこうと思っています。主な内容としては、エコピアの森、森林整備活動、環境ものづくり教室、地域ダイアログです。エコピアの森の森林整備活動は、工業用水として使っている水の水源地である道志村の森林整備活動を行政と一緒にしています。

<質疑応答>

（磯崎委員）横浜工場では何を作っていますか。

（応募者）加工品の工場で、主に作っているのは、コンベアベルトや免震ゴムなどです。

(磯崎委員) ゴムの処分はどのようにしていますか。

(応募者) リサイクルを前提に、取引先の業者で、もう一度ゴムを練って、ゴム底に使うなど有効活用に努めています。

(戸川委員長) 環境ものづくり教室で、ボードゲームで工場の経営疑似体験とありますが、環境の切り口で何か行っていますか。地域ダイアログの内容とそこから何か生まれたことがあれば、教えてください。

(応募者) 環境ものづくり教室では、転がり抵抗を低減させているタイヤ製品がありますので、転がり抵抗の高いものと低いものを、実際に転がして見てもらっています。また、ボードゲームでは、環境の対応についてこうやったらよくなるということを理解してもらいながら、環境の視点を入れて行っています。地域ダイアログに関しては、地域の方々を工場に招き、工場見学で見たいものの要望を聞くなど、地域の方々の声を大事にしながらつなげています。

(篠木委員) 長年にわたって環境活動に取り組まれています、従業員のモチベーションを維持するための工夫を教えてください。

(応募者) 会社側からモチベーションアップにつながることは行っていませんが、地域を清掃しているときに、地域の方々からいつもありがとうなどと言ってもらえると、やってよかった、もっとやっついこうという気持ちになっていくというのが、従業員の声です。地域の方々からの声モチベーションアップにつながっています。

#### 株式会社横浜ビール

##### <プレゼンテーション>

地元のビールを地元の食材とともに地元の方々へ、町の人たちに誇りに思ってもらえるようなビール屋になりたいという思いで、ビール醸造、レストラン運営をしています。市内、県内の生産者さんから食材をいただき、その方々の思いを伝える、食を通して、その町を知り、自分の町を好きになってほしい、誇りをもってほしい、そのようなつながりで行っています。環境に関しては、ビールを仕込んだ際に出るしぼりかすを、牛の餌や堆肥飼料にするなどしています。私たちは横浜の水源の村、道志村からきた水でビールを作っており、その水で仕事、生活をさせていただいています。その村の現状を見に行くと、過疎や間伐の問題などがあり、このままいくと環境が崩れていき、そこから流れてくる健全な水がなくなってしまうことにもつながりかねない状況です。私たちができることは、食を通して、道志村を伝えることです。横浜の飲食店の仲間と一緒に、道志村の食材をそれぞれのお店で伝えたり、わさび田を開墾して、わさびを育てたりしています。飲食店には、毎日お客様という伝える人がたくさんいます。毎日飲食店を通して、水源の村を伝えていく、そのために飲食店の仲間が思いをひとつにして、つながりをもっていければいいと思っています。

##### <質疑応答>

(北村委員) 環境への取組を開始したのはまだ最近ですが、今後やっていきたいことのアイディアがあれば、教えてください。

(応募者) 特別に環境を意識して最近始めたわけではなく、もともとやっていたというだけの話です。これからも引き続き、わさびであったり、横浜、県内の食の輪を作り、東北などにもつながっていければいいと思っています。

(川崎委員) 横浜ビールを始めた時には、あまり環境という意識はなかったのですが、今、環境に取り組んでいるのは、世の中の変化なのか、事業をやっていくうえでの別の要因があったのか、教えてください。

(応募者) ビールを売りどばすことではなく、町のビール屋としてどうあるかを考えるようになってから、取組が自然に出てきたという感じです。

(戸川委員長) 近隣の飲食店の方と一緒に、道志村の食材を使うという話がありましたが、それを客にどのようにアピールしていますか。

(応募者) 地味でいいから毎日長く続けるようにやっています。今日入った道志村のこんにゃくだよでもいいので、そのお店で考えて、お客さんに伝えてもらっています。  
(為崎委員) 今後も環境に配慮して、地元の食材を探して、それを企画していくという考えはありますか。  
(応募者) どんどん広がっていくと思います。ビール造りは、そちらに徐々に変わってきています。

### (3) 児童・生徒・学生の部

#### 横浜市立舞岡中学校 科学部

##### <プレゼンテーション>

舞岡中学校では、科学部の活動を中心として、全校生徒が関わる活動をしています。目の前を流れる舞岡川のハグロトンボを題材に、隣の舞岡小学校、舞岡高等学校と連携して、環境学習を進めています。小中高という異年齢の集団による環境学習は、おそらく全国的にもあまり例がない取組だと思います。ハグロトンボは、昭和40年代、横浜で絶滅したと思われていましたが、平成7年に金沢区で再発見されたのを契機に、市内のあちこちの河川で復活していることがわかりました。舞岡川では、10年ほどハグロトンボの調査をしています。少しずつ復活の兆しをみせています。小中高の取組は、いつも一緒に行くことは難しいので、夏休みの一日を設定し、一緒に川を歩きながら調査しています。そして、夏休みの終わりに3校合同で調査報告会を開いています。それぞれの学校では、全校生徒に呼びかけて、ハグロトンボを見つけてもらい、見つけたものは学区の地図にシールを貼って発見ポイントをチェックするという方法で生息調査をしています。また、科学部が中心になり、ハグロトンボの生態調査、縄張り行動の調査も2年ほど続けて行っています。それまでは全く見向きもしなかった小さなトンボですが、全校生徒にも呼びかけ、子どもたちの関心が高まり、自然と川に目を向ける機会を作っています。

##### <質疑応答>

(北村委員) 専門的な調査をされているようですが、中学生がどのくらい自主的にやられているのか、また、高校と小学校と共同で行う中で中学校の役割を教えてください。

(応募者) 調査への参加を全校生徒に呼びかけます。子どもたちは自主的に見つけて、地図にシールを貼りにきます。科学部がまとめた資料は、基本は子どもたちが書いています。ただ、文体やまとめ方、引用や資料については教員が指導しています。調査の方法も教員が指導していますが、データのまとめ、グラフやマップも子どもたちが作ったものです。それなりに論文らしく書けていると思いますが、子どもたちが主体的に行っているものです。小中高の連携ですが、小学校と高校には科学部がないので、中心になって活動するのは中学校の科学部です。ただ、小中高の子どもたちが日常的に関わる機会が少ないので、今後、もう少し密度の高いものにしていくことが課題だと思います。

(篠木委員) 顧問の先生がいなくなってしまうときに、同じような研究を続けていけるのか、継続性についての工夫を教えてください。

(応募者) その点は問題だと思っています。学校の部活動は、顧問がいなくなったことが課題です。しかし、今始めているのは、地域のNPOや団体との連携です。また、国土交通省の関係のプロジェクトに参加しており、子どもたちのスキルが上がってきているので、部活が存続すれば、上級生が下級生を指導するというかたちで、ある程度の活動は続けていけると思います。ただ、このような論文形式の報告が作れるか、それを指導できるかはわかりませんが、ある程度の研究は、子どもたちだけで十分続けていけるとしています。

### 3 生物多様性特別賞審査

(事務局) 事前審査で推薦があった応募者は、新治市民の森愛護会、横浜市立舞岡中学校科学部でした。また、該当なしのご意見もありました。ご審議をお願いします。

(戸川委員長) 委員から意見をお願いします。

(北村委員) 候補にあがっている2者とも、生物多様性に関して取り組んでいるところだと思います。今回、生物多様性に関する取組を書く欄に、何も書いていなかった応募者が多かったのも、委員としては選びにくかったです。

特徴としては、新治市民の森愛護会は、様々な内容のことを行っていますが、生物多様性にどうつながっているのかということがもう少しわかると、理解しやすかったと思います。舞岡中学校科学部は、絶滅危惧種のようなものに注目し、きちんと評価していることに加えて、小学校、中学校、高校まで長い間の環境教育に携わっているというところがすばらしいと思います。どちらもいい活動だと思います。

(為崎委員) 新治市民の森愛護会は、森を解放し、こども森の日などで、多くの人に価値を伝えているところと、主体性の観点でも、この団体が主体となりモニタリングを継続して行い、経年変化をとらえているところを評価しました。舞岡中学校科学部は、先ほどの質疑応答でも主体性についての質問がありましたが、中学生が書いているが、最後に論文として仕上げるところは顧問の先生が行っているとのことで、研究成果の質は高いですが、逆に、中学生の視点を含めた生物多様性の分析があってもよかったですと思います。主体性の観点で、新治市民の森愛護会かだと思います。

(若林委員) この2者はどちらもいいと思ったので悩みました。新治市民の森愛護会の方が幅が広い活動だと思います。舞岡中学校科学部は、河川事業の政策提言に結びつけるなど深いものがあると思います。ただ、プレゼンテーションで先生の話聞き、やはり先生ありきかとも思いました。新治市民の森愛護会がいいかだと思います。

(磯崎委員) 新治市民の森愛護会は、子どもたちと一緒に活動し、生物の研究もされていていいと思います。舞岡中学校科学部は、高校生、中学生、小学生が一緒になっているところがいいと思います。

(川崎委員) できれば、新治市民の森愛護会と舞岡中学校科学部の方の補足の説明を聞きたいです。新治市民の森愛護会は、生物多様性の欄に行っていることをすべて書いてくださったので、逆にポイントがぼけてしまったように思います。おそらく新治市民の森には、生物多様性の観点からも貴重な資源があり、その保全をされているのですが、どこがポイントかわからなくなっています。現場で活動している方たちが生物多様性の観点からみて押さえないポイントを聞きたいです。舞岡中学校科学部は、ハグロトンボというテーマを見るだけでも生物多様性そのものですが、生徒たちが、生物多様性の観点からハグロトンボにどのような思いを持って取り組んでいるのかということの説明をいただければ、最終的に判断できるかだと思います。

(北村委員) 私も、川崎委員と同じ感想です。新治市民の森愛護会は、たくさん書かれているので、個人的には少し違うなという活動まで書かれていて、生物多様性のことをわかっているのかなという心配もありました。もう少し要点をしぼって説明いただくと、ありがたいです。先ほどのプレゼンテーションと質疑応答は、全体の審査であり生物多様性について質問する機会がなかったのも、改めて聞く機会を設けていただければと思います。

(篠木委員) ポイントがわからなくて選べなかったのも、該当なしにしました。もし説明いただけるのであれば、新治市民の森愛護会には、生物多様性の場を作り出しているのか、維持しているのか、見守っているのかなど、スタンスを説明していただきたいです。舞岡中学校科学部は、生徒の自主性、生徒の生物多様性についての考えや理解について説明していただきたいです。

(戸川委員長) 委員から希望が多いので、2団体の方、2分程度でプレゼンテーションをお願いします。



(新治市民の森愛護会) 森の資源を使わないと森が老齢化していき、環境がすべて同じになってしまいます。昔、雑木林は、15～20年で伐採しながら利用していたので、いろいろな樹齢の林が散らばっていて、その環境にあった動植物が生息できていました。ところが、30年、40年使わなくなった森は、環境がひとつになってしまい、その環境に生息できるものしか、そこに生息できなくなっています。生物多様性の面からみると、非常に偏った中身になっています。もう一度森を更新して、各樹齢の森を作ると、またそこにいろいろな環境に住める動植物が出てきて、生物多様性が出てきます。これが、学校林や記念植樹のところで、新たな環境を作り出してきました。

(横浜市立舞岡中学校科学部) 子どもたちの主体性については、基本的にも書いています。書き方、まとめかたは、教員がアドバイスしていますが、先ほども話したとおりです。子どもたちにとってハグロトンボは、この調査を始めるまではほとんど意識していなかった昆虫のひとつです。それが、今回の調査で身近な生物として注目されるようになりました。今、地域の団体と一緒に、トンボだけではなく川の生物も調査しています。校内に舞岡川水族館を設置し、魚、カニ、貝を展示して、関心を持ってもらっています。また、昨年調査の後、河川整備の関係で草が刈り取られ、せっかく復活してきたハグロトンボが激減してしまっています。この激減について考えていく中で、整備に問題があるのではないか、生物にダメージを与えないような整備の方法はないのかと、今後はそのあたりも研究し、土木事務所等に提言できないかと、子どもたちが考えています。

(戸川委員長) ありがとうございます。今回、イレギュラーでプレゼンテーションをしていただきましたが、次回はまた考えたいと思います。

#### 4 受賞候補者の決定

##### (1) 市民の部

(戸川委員長) 市民の部について事務局から集計結果の報告をお願いします。

(事務局) 実践賞の対象となる15点以上の応募者は、I LOVE YOKOHAMA【横浜】、久下勇次郎、鶴見「みどりのルート1」をつくる会、戸塚桜セーバー、新治市民の森愛護会、特定非営利活動法人 ホタルのふるさと瀬上沢基金、横浜サンプラザプロジェクト実行委員会です。このうち、大賞の候補者は、最高点を獲得した新治市民の森愛護会となりました。

(戸川委員長) 新治市民の森愛護会が最高得点で大賞の候補者になりますが、よろしいですか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) 大通り公園水の広場愛護会が、あと1点か2点なので、惜しいと思いますが、いかがでしょうか。

(川崎委員) 進め方について質問です。私も惜しいと思いますが、仮に議論して、大通り公園水の広場愛護会も選定しようとなったときに、この点数のままで実践賞の候補者になるのか、委員が加点して15点を越えるようにするのか、どちらですか。

(戸川委員長) 実践賞の基準は、15点なので、どなたか委員が加点する必要があります。

(北村委員) 1件目の市民の部なので、他の部門を見てみないと、今判断しにくいと思います。

(川崎委員) 大通り公園水の広場愛護会は保留にし、他の部門が終わってから判断してはどうでしょうか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) ここで一回決めさせていただいて、実践賞候補者は、I LOVE YOKOHAMA【横浜】、久下勇次郎、鶴見「みどりのルート1」をつくる会、戸塚桜セーバー、特定非営利活動法人ホタルのふるさと瀬上沢基金、横浜サンプラザプロジェクト実行委員会

は決定でよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし

## (2) 企業の部

(戸川委員長) 企業の部について事務局から集計結果の報告をお願いします。

(事務局) 企業の部については、すべての応募者が15点以上得票されています。なお、大賞の候補者は、最高得点のイケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北です。ご審議をお願いします。

(戸川委員長) この8社を実践賞の候補者としてよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) 企業の部実践賞の候補者は、イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北、石井造園株式会社、株式会社大倉物産、京セラコネクタプロダクツ株式会社、高梨乳業株式会社、日本電技株式会社横浜支店、株式会社ブリヂストン横浜工場、株式会社横浜ビールの8社に決定します。

次に、大賞ですが、イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北が最高得点です。大賞候補者としてよろしいですか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) 企業の部大賞の候補者は、イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北に決定しました。

## (3) 児童・生徒・学生の部

(戸川委員長) 児童・生徒・学生の部について事務局から集計結果の報告をお願いします。

(事務局) 児童・生徒・学生の部については、横浜市立舞岡中学校科学部が15点以上を獲得されましたので、実践賞及び大賞の候補者となります。ご審議をお願いします。

(戸川委員長) まず、実践賞については、候補者としてよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) 次に、大賞です。ルールとしては何校かあるうちの最高得点ということですが、今回は1校のみの応募です。ただ、ほかの部門と比べても申し分ない点数をとっていただいているので、大賞候補者としてよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) それでは、児童・生徒・学生の部は、横浜市立舞岡中学校科学部を大賞候補者とします。

## (4) 市民の部 (再度)

(戸川委員長) では、市民の部に戻ります。大通り公園水の広場愛護会に私が加点させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員) 異議なし

(戸川委員長) では、加点します。大通り公園水の広場愛護会も15点に達しましたので、実践賞の候補者とします。

## (5) 生物多様性特別賞

(戸川委員長) 生物多様性特別賞について、事務局から集計結果の報告をお願いします。

(事務局) 投票の結果は、新治市民の森愛護会が3票、横浜市立舞岡中学校科学部が4票です。ご審議をお願いします。

(戸川委員長) 投票結果のとおり、舞岡中学校科学部で決定したいと思います。よろしいでしょうか。

	<p>(委員) 異議なし  (戸川委員長) それでは、生物多様性特別賞の候補者は横浜市立舞岡中学校科学部とします。  審査については、以上で終了します。  その他、委員の皆様から何かありますか。  (委員) なし  (戸川委員長) これで議事を終わります。では、事務局にお返しします。</p> <p>(事務局) 審査委員の皆様並びに応募者の皆様には長時間にわたるプレゼンテーション及び審議をいただき、ありがとうございました。  本日の会議録については、委員並びに発表者の皆様に、後日、ご確認をいただきます。また、受賞者の皆様の応募書類については、募集概要に記載のとおり、規約・定款、役員名簿、収支書類及び個人情報を除いて、ホームページに掲載させていただきます。  続いて、今後の予定です。本日の審査委員会の審査をふまえ、市長が受賞者を決定します。正式に受賞者が決定しましたら、文書で通知します。  以上をもちまして、第23回横浜環境活動賞審査委員会を閉会します。  閉会</p>
資 料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 応募者一覧 (プレゼンテーション 発表順)</li> <li>2 会場図</li> <li>3 横浜環境活動賞審査委員会 委員名簿</li> <li>4 横浜環境活動賞実施要綱</li> <li>5 横浜環境活動賞審査委員会運営要綱</li> <li>6 審査基準 (市民の部/企業の部/児童・生徒・学生の部/生物多様性特別賞)</li> <li>7 応募者概要</li> <li>8 今後の流れ</li> <li>9 (参考資料) これまでの受賞者一覧</li> </ol>

# 第 23 回横浜環境活動賞審査委員会（第 2 回）

平成 28 年 2 月 23 日（火）13 時～17 時 30 分

関内中央ビル 10 階大会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 議 事

- (1) 審査委員会の進行等について
- (2) プレゼンテーション及び質疑応答
  - ア 市民の部
  - イ 企業の部
  - ウ 児童・生徒・学生の部
- (3) 生物多様性特別賞審査
- (4) 受賞候補者の決定
  - ア 市民の部
  - イ 企業の部
  - ウ 児童・生徒・学生の部
  - エ 生物多様性特別賞

### 3 閉 会

#### 【配付資料】

- 資料 1 応募者一覧（プレゼンテーション 発表順）
- 資料 2 会場図
- 資料 3 横浜環境活動賞審査委員会 委員名簿
- 資料 4 横浜環境活動賞実施要綱
- 資料 5 横浜環境活動賞審査委員会運営要綱
- 資料 6 審査基準（市民の部／企業の部／児童・生徒・学生の部／生物多様性特別賞）
- 資料 7 応募者概要
- 資料 8 今後の流れ
- 資料 9 （参考資料）これまでの受賞者一覧

## 第 23 回横浜環境活動賞 応募者一覧 (プレゼンテーション 発表順)

(五十音順、敬称略)

### 市民の部

順番	応募者名
1	I LOVE YOKOHAMA【横浜】
2	大通り公園水の広場愛護会
3	久下勇次郎
4	鶴見「みどりのルート1」をつくる会
5	戸塚桜セーバー
6	新治市民の森愛護会
7	特定非営利活動法人 ホタルのふるさと瀬上沢基金
8	横浜サンプラザプロジェクト実行委員会

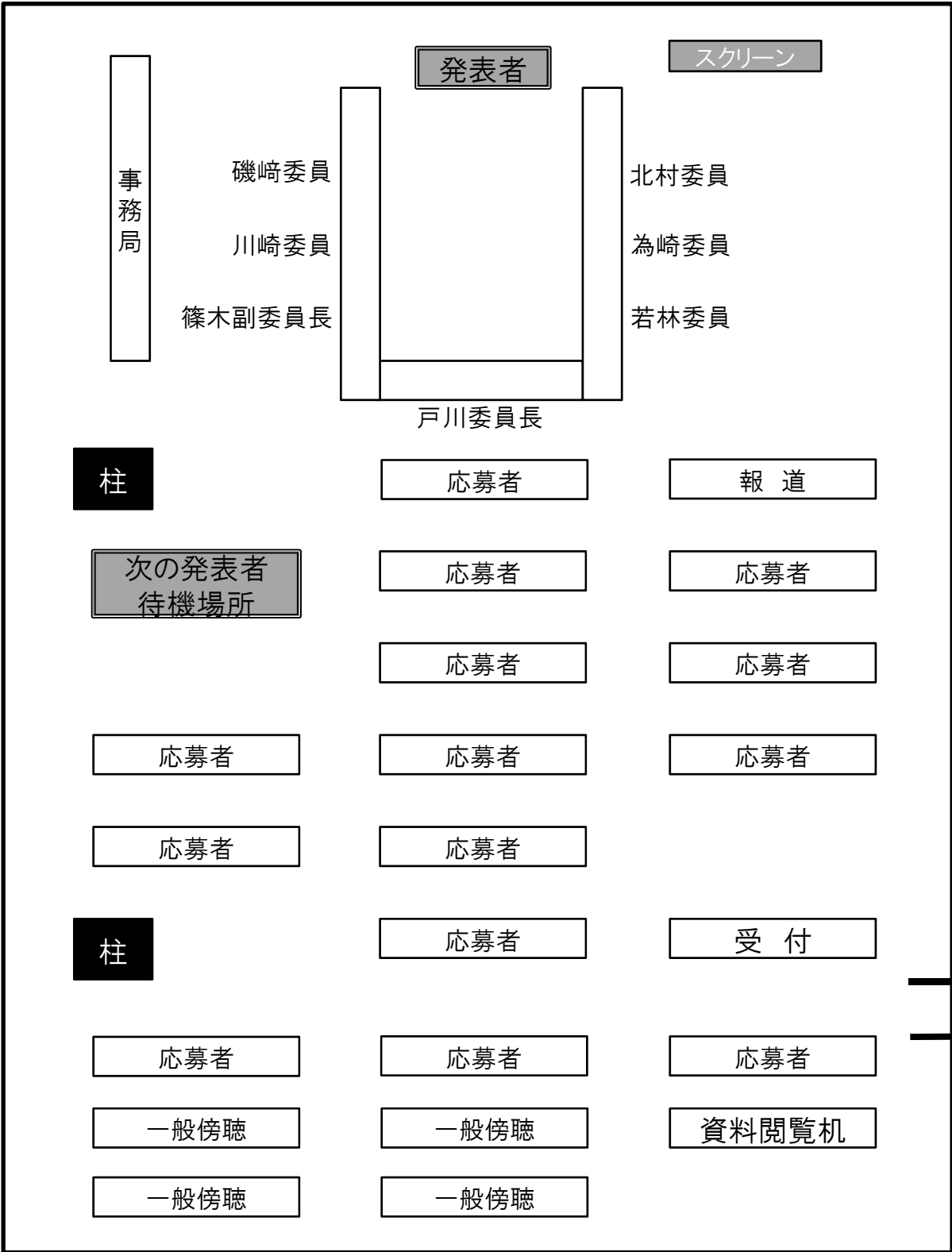
### 企業の部

順番	応募者名
1	イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北
2	石井造園株式会社
3	株式会社大倉物産
4	京セラコネクタプロダクツ株式会社
5	高梨乳業株式会社
6	日本電技株式会社 横浜支店
7	株式会社ブリヂストン 横浜工場
8	株式会社横浜ビール

### 児童・生徒・学生の部

順番	応募者名
1	横浜市立舞岡中学校 科学部

第23回横浜環境活動賞 審査委員会 会場図



## 横浜環境活動賞審査委員会 委員名簿

(敬称略)

	氏 名	所 属 ・ 役 職 等
委員長	とがわ たかのり 戸川 孝則	横浜市資源リサイクル事業協同組合 企画室長
副委員長	しのき みきこ 篠木 幹子	中央大学 総合政策学部 准教授
	いそざき やすかず 磯崎 保和	横浜市町内会連合会 会計
	かわさき あや 川崎 あや	特定非営利活動法人アクションポート横浜 理事 一般社団法人インクルージョンネットかながわ 理事
	きたむら わたる 北村 亘	東京都市大学 環境学部 講師
	ためさき みどり 為崎 緑	中小企業診断士
	わかばやし しろう 若林 史郎	横浜商工会議所 参与・企画広報部長

任期：平成 27 年 11 月 1 日～平成 29 年 10 月 31 日

## 横浜環境活動賞実施要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、環境保全・再生・創造に関し顕著な功績のあった個人、団体、企業及び児童・生徒・学生を表彰（以下「横浜環境活動賞」という）することによって、環境に対する意識高揚を図り、環境に配慮した活動を推進し、環境保全型社会の創造を図ることを目的とする。

### (表彰の区分)

第2条 この要綱による表彰は、次のとおり区分することとし、(1)から(3)の各部門においては実践賞及び大賞を設置する。

- (1) 市民の部 個人及び団体に対する表彰
- (2) 企業の部 企業に対する表彰
- (3) 児童・生徒・学生の部 児童・生徒（小・中学生）、学生（高校・大学生）を中心とする団体に対する表彰

2 前項に定める実践賞及び大賞の他、市長は、必要に応じて特別賞を設置することができる。

### (表彰対象)

第3条 横浜環境活動賞の表彰対象は、次に掲げるいずれかの要件に該当するものとする。

- (1) 環境保全・再生・創造に関し普及啓発、実践活動等を行い、その成果が認められるもの
- (2) 環境に配慮した活動を行い、環境保全・再生・創造の推進に貢献しているもの
- (3) その他市長が表彰に値すると認めるもの

2 前項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当するものは表彰の対象としない。

- (1) 既に横浜環境活動賞大賞を受けたもの
- (2) その他市長が適当でないと認めたもの

### (表彰の方法)

第4条 横浜環境活動賞の表彰は、表彰状を授与して行う。

2 前項の場合において、記念品等を併せて授与することができる。

### (候補者の募集)

第5条 横浜環境活動賞の表彰対象となる候補者は、一般公募及び横浜市の関係局区、学校長、市民団体等の推薦により募集する。推薦を行うものは、次の基準により個人、団体、企業、児童・生徒（小・中学生）、学生（高校・大学生）を中心とする団体を推薦するものとする。

2 候補者の資格は次のとおりとする。

- (1) 個人 横浜市内に居住又は勤務先を有するもの
- (2) 団体 団体の主たる活動を横浜市内で実施しているもの、若しくは団体の本拠地を横浜市内に有するもの
- (3) 企業 横浜市内に事業所を有するもの
- (4) 児童・生徒・学生 横浜市内に通学する児童・生徒（小・中学生）、学生（高校・大学生）を中心とする団体



3 推薦基準は次のとおりとする。

- (1) 第3条第1項に掲げる条件を満たし、対象者の活動が他の模範となり推奨できるものであること。
- (2) 対象者の活動が、将来にわたり継続する見込があり、かつ学校・家庭や地域社会への貢献度が高いものであること。
- (3) 対象者の活動期間が、概ね3年以上であること。

(応募様式)

第6条 応募又は推薦をしようとするものは、所定の様式により行うものとする。

(被表彰者の決定)

第7条 被表彰者は、別に定める横浜環境活動賞審査委員会による審査を経て、市長が決定する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、環境創造局長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年7月15日から施行する。

附 則

この要綱は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成17年12月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年1月13日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年8月25日から施行する。

# 横浜環境活動賞審査委員会運営要綱

制 定 平成 24 年 3 月 1 日 環創政第 907 号

## (趣旨)

第1条 この要綱は、横浜市附属機関設置条例(平成 23 年 12 月横浜市条例第 49 号)第4条の規定に基づき、横浜環境活動賞審査委員会(以下「委員会」という。)の組織、運営その他必要な事項について定めるものとする。

## (委員)

第2条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 学識経験者
  - (2) 企業経営の経験を有する者
- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
  - 3 委員は、再任されることができる。
  - 4 委員の代理は、認めないものとする。

## (委員長)

第3条 委員会に委員長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代理する。

## (会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集する。ただし、委員長が互選されておらず、かつ、その職務を代理する者が指名されていないとき、若しくは委員長及びその職務を代理する者とともに事故があるとき、又は委員長およびその職務を代理する者がともに欠けたときの委員会の会議は、市長が招集する。

- 2 委員長は、委員会の会議の議長とする。
- 3 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 4 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

## (会議の公開)

第5条 横浜市の保有する情報の公開に関する条例(平成 12 年 2 月横浜市条例第 1 号)第 31 条の規定により、委員会の会議については、一般に公開するものとする。ただし、同条ただし書各号に該当する場合は、この限りでない。

## (意見の聴取等)

第6条 委員長は、委員会の会議の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、環境創造局政策調整部政策課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 24 年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初に第2条第1項の規定により任命する委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、この要綱の施行の日から平成 25 年10 月 31 日までとする。

「応募用紙における確認欄」はあくまで主な参照例です。応募用紙のその他の欄の記載内容や、詳細・補足資料も参照してください。

第 23 回横浜環境活動賞審査基準 **市民の部**

1 審査基準

評価項目	評価の視点	配点	応募用紙における確認欄(参照例)
(1) 活動の継続性	<p>①過去の実績 活動期間が、おおむね3年以上であるか。</p> <p>②将来性 活動が将来にわたり継続する見込みがあるか。</p>	5点	<p>①過去の実績</p> <p>1 応募者概要「活動開始年」 2 最近3年間の主な活動</p> <p>②将来性</p> <p>7 今後の活動方針</p>
(2) 地域への貢献度	<p>①地域住民の参加と自主性 地域住民の参加を得られているか。特に、課題意識を持つ地域住民などによって自主的に進めたり、独自に組織されているか。</p>	5点	<p>地域住民の参加</p> <p>3 地域との関わり 4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機</p> <p>自主性</p> <p>3 地域との関わり</p>
	<p>②他の市民団体、学校、企業、行政等との連携 活動が、他の市民団体、学校、企業、行政等と連携して行われているか。</p>	5点	3 地域との関わり
(3) 活動の特色	<p>①先見性、広範性 横浜において新たな視点からの活動であるか。また、幅広い視野を持って活動しているか。 ※全国的に実施例があっても、横浜において新たな活動であった場合には評価対象とする。また、活動が幅広い分野に影響を及ぼすものについても評価対象とする。</p>	5点	<p>1 応募者概要「活動の目的やねらい」 4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機</p>
	<p>②活動の成果、模範性 活動の成果が具体的に認められるか。また、他の模範となり、多くの人が取り組みやすい活動であるか。</p>	5点	<p>活動の成果</p> <p>2 最近3年間の主な活動 5 今までの活動（取組）や成果</p> <p>模範性</p> <p>2 最近3年間の主な活動</p>

2 評価方法

- (1) 「審査基準」に従い、横浜環境活動賞審査委員会委員が評価し、25点満点で採点する。原則として、委員の採点の平均が、15点以上を実践賞の候補とし、最高得点を大賞の候補とする。
- (2) 原則として、大賞は1者とする。
- (3) 本賞の受賞歴のある個人及び団体の審査にあたっては、各々の項目について前回受賞時からの「発展性」を考慮する。

**第 23 回横浜環境活動賞審査基準** 企業の部

**1 審査基準**

評価項目	評価の視点	配点	応募用紙における確認欄(参照例)
(1) 取組姿勢、実績	①取組姿勢 事業所全体として前向きに取り組んでいるか。	5 点	2 環境に対する企業理念の設定、管理体制
	②過去の実績 原則として3年以上の実績があり、今後の継続性も見込める活動であるか。実績についての点検や改善、公表がされているか。	5 点	1 応募者概要「環境への取組を開始した年月」 2 環境に対する企業理念の設定、管理体制
(2) 環境保全・再生・創造への効果	①効果 環境保全・再生・創造に対する直接、間接的な効果が認められるか。	5 点	3 環境に配慮した製品や技術開発、サービスの提供・導入 5 成果を上げている取組や先駆的・模範的な取組・事業
(3) 活動の特色	①地域社会等との連携、支援、参加 地域住民などと連携しながら、環境活動に積極的に取り組んでいるか。	5 点	4 事業活動において環境に配慮している取組、社会貢献活動
(4) 先駆性、模範性	①先駆性 横浜において先駆的な環境配慮型製品の開発や導入などを行っているか。 ※全国的に実施例があっても、横浜において新たな活動であった場合には評価対象とする。  ②模範性 他企業の模範となる活動であるか。(地域との連携等)	5 点	5 成果を上げている取組や先駆的・模範的な取組・事業

**2 評価方法**

- (1) 「審査基準」に従い、横浜環境活動賞審査委員会委員が評価し、25 点満点で採点する。原則として、委員の採点の平均が、15 点以上を実践賞の候補とし、最高得点を大賞の候補とする。なお、応募者が中小企業である場合には、その点を考慮する（大企業では例が見られるが、中小企業では先駆的等）。
- (2) 原則として、大賞は1者とする。
- (3) 本賞の受賞歴のある企業の審査にあたっては、各々の項目について前回受賞時からの「発展性」を考慮する。

## 第 23 回横浜環境活動賞審査基準 児童・生徒・学生の部

### 1 審査基準

評価項目	評価の視点	配点	応募用紙における確認欄(参照例)
(1) 活動の継続性	<b>①過去の実績</b> ・活動期間が、おおむね3年以上であるか。 ・月1回程度定期的に、または、夏休みなど集中的に活動が行われているか。	5点	<b>①過去の実績（活動期間）</b> 1 応募者概要「活動開始年」 2 最近3年間の主な活動  <b>②将来性</b> 7 今後の活動方針
	<b>②将来性</b> ・活動が将来にわたり継続する見込みがあるか。 ・学校や地域、OB等によりサポートされているか。		
(2) 学内・地域への貢献度	<b>①学内等への貢献度</b> イベント開催、成果発表等により他の生徒・学生や家庭に活動の輪が広がっているか。	5点	3 地域との関わり
	<b>②地域への貢献度</b> ・地域の活動を進め、地域住民や他団体・組織等の参加や連携を深めているか。 ・他の活動グループとの交流を進めているか。	5点	
(3) 活動の特色	<b>①自主性、独自性</b> ・児童・生徒・学生が主体となって活動が行われているか。 ・横浜において新たな視点からの活動であるか。また、幅広い視野を持って活動を行っているか。 ※全国的に実施例があっても、横浜において新たな活動であった場合には評価対象とする。また、活動が幅広い分野に影響を及ぼすものについても評価対象とする。	5点	<u>自主性</u> 5 今までの活動（取組）や成果  <u>独自性</u> 4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ
	<b>②活動の成果、模範性</b> 活動の成果が具体的に認められるか。他の模範となり、多くの人が取り組みやすい活動であるか。	5点	<u>活動の成果</u> 2 最近3年間の主な活動 5 今までの活動（取組）や成果  <u>模範性</u> 2 最近3年間の主な活動

### 2 評価方法

- (1) 「審査基準」に従い、横浜環境活動賞審査委員会委員が評価し、25点満点で採点する。原則として、委員の採点の平均が、15点以上を実践賞の候補とし、最高得点を大賞の候補とする。
- (2) 評価にあたり、応募者の年齢を十分加味する。
- (3) 原則として、大賞は1者とする。
- (4) 本賞の受賞歴のある児童・生徒・学生の審査にあたっては、各々の項目について前回受賞時からの「発展性」を考慮する。

## 第 23 回横浜環境活動賞審査基準 **生物多様性特別賞**

### 1 生物多様性特別賞について

生物多様性特別賞は、全応募者の中から、生物多様性の保全・再生・創造に特に貢献していると評価される者を表彰するものである。大賞、実践賞との重複受賞も可能とする。

### 2 受賞候補者の選出方法

- (1) 横浜環境活動賞審査委員会の各委員が、評価基準にしたがって全応募者から 1 者を推薦する。
- (2) 委員から推薦があった応募者の中から、審査委員会での討議により受賞候補者を選定する。

### 3 応募用紙における確認欄（参照例）

- (1) 市民の部 主に「6 生物多様性に関する取組」
- (2) 企業の部 主に「4 事業活動において環境に配慮している取組、社会貢献活動(3)生物多様性保全等の取組」
- (3) 児童・生徒・学生の部 主に「6 生物多様性に関する取組」

### 4 評価基準

- (1) 日々の活動やイベントなどを通じ、「生物多様性」を一般に、特に子どもたちに対し、広く伝えることに貢献しているか。
- (2) 生き物がつながり、生息できる環境づくりを行っているか。
- (3) (1)、(2)を満たし、他の模範となり多くの人を取り組みやすい活動であるなど、特に優れたものであるか。

#### 【活動例】

##### 市民の部

- ・ 子どもたちを対象に、環境学習、自然観察会などのイベントを開催し、虫や植物など生き物のつながりについての理解を深めた
- ・ 希少な野生動植物を保護するため、里山や公園の手入れをした
- ・ 川や海岸のごみ拾いを行い、そこに生息する動植物の生息環境を改善した
- ・ 地産地消の取組を通じて、環境負荷の少ないものを選ぶ大切さや、身近な田畑や生き物について学ぶ機会を作った

##### 企業の部

- ・ 企業の敷地内に、ビオトープを整備した／定期的に草刈り・清掃等の管理を行い、近隣に住む子どもたちと一緒に生き物調査を行うなど活用をはかった
- ・ 生態系に配慮した工事を行った／設備を設置した
- ・ 日本経団連「生物多様性宣言」に配慮した取組を行った

##### 児童・生徒・学生の部

- ・ 環境学習、自然観察会などにより、虫や植物など生き物のつながりについての理解を深めた
- ・ 校内に生息している希少な野生動植物を保護した
- ・ 学校近くの川や海岸のごみ拾いを行い、そこに生息する動植物の生息環境を改善した
- ・ 地産地消について学び、環境負荷の少ないものを選ぶ大切さや、身近な田畑や生き物の大切さを理解した

# 第 23 回横浜環境活動賞

## 応募者概要

(注)この応募者概要は、審査資料ではありません。傍聴者用の参考資料です。

○この応募者概要は、応募者から提出された応募用紙の記載内容を抜粋したものです。

《抜粋項目》

・市民の部

「応募者名」、「推薦者名（他薦の場合）」、「活動地域」、「活動の目的やねらい」、  
「最近3年間の主な活動」、「審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント」

・企業の部

「応募者名称」、「推薦者名（他薦の場合）」、「所在区」、「事業内容」、  
「環境に関する基本理念・自己宣言等」、「成果を上げている取組や先駆的・模範的な取組」  
「審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント」

・児童・生徒・学生の部

「応募者名」、「推薦者名（他薦の場合）」、「活動地域」、「活動の目的やねらい」、  
「最近3年間の主な活動」、「審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント」

○審査には、この応募者概要ではなく、応募者から提出された応募用紙及び参考資料一式を用いています。

○応募者の詳細資料については、閲覧用として会場後方にご用意しています。ゆずりあって閲覧いただくようお願いします。



# 目 次

(五十音順、敬称略)

## 市民の部

No.	応募者名	掲載ページ
1	I LOVE YOKOHAMA【横浜】	1ページ
2	大通り公園水の広場愛護会	2ページ
3	久下勇次郎	3ページ
4	鶴見「みどりのルート1」をつくる会	4ページ
5	戸塚桜セーバー	5ページ
6	新治市民の森愛護会	6ページ
7	特定非営利活動法人 ホタルのふるさと瀬上沢基金	7ページ
8	横浜サンプラザプロジェクト実行委員会	8ページ

## 企業の部

No.	応募者名	掲載ページ
1	イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北	9ページ
2	石井造園株式会社	10ページ
3	株式会社大倉物産	11ページ
4	京セラコネクタプロダクツ株式会社	12ページ
5	高梨乳業株式会社	13ページ
6	日本電技株式会社 横浜支店	14ページ
7	株式会社ブリヂストン 横浜工場	15ページ
8	株式会社横浜ビール	16ページ

## 児童・生徒・学生の部

No.	応募者名	掲載ページ
1	横浜市立舞岡中学校 科学部	17ページ

**市民の部**    1 | LOVE YOKOHAMA【横浜】

推薦者名		旭料飲喫茶事業組合
活動地域		横浜市全域、その他
活動の目的やねらい		「楽しみながら」できる「地元に貢献するアクション」
最近3年間の主な活動	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーンアップ活動</li> <li>・キャンドル作成</li> <li>・キャンドルイルミネーション</li> <li>・交流会</li> </ul>
	平成26年度	《同上》
	平成27年度	《同上》
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットを駆使した老若男女（主体は若手）による市民発信の地域貢献アクション</li> <li>・自団体のみアクションにこだわらず、行政や企業、既存のローカルコミュニティ（組合や商店街など）との協働</li> <li>・一連の活動の継続性と若手を中心とした活力ある動員力</li> </ul>

推薦者名	—	
活動地域	中区、西区	
活動の目的やねらい	<p>&lt;環境美化運動&gt;          花を植えることにより、花があることにより、花が咲くきれいな公園環境になるように、市民の一人一人が理解と関心を示してくれるようメンバーは率先して活動する。同時に花のある環境づくりで「ゴミ」をなくし、子供も安心して遊べる安全な公園環境づくりをめざす。</p>	
最近3年間の主な活動	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域新聞より取材</li> <li>・公園掃除の案内「花ボランティア」</li> <li>・花壇づくりの案内「一緒に花を植えませんか」</li> </ul>
	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9/8 参加のお礼&amp;新聞掲載のお知らせ</li> <li>・花の配布</li> <li>・「ハイビスカス」を植える</li> <li>・「タイタンビカス」に挑戦</li> </ul>
	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育てた「タチアオイ」の種を→配布する</li> <li>・平成26年度「タチアオイ」の種を採取する</li> <li>・「ゼラニウム」の挿し木に取り組む</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<p>◆『大通り公園』は、昭和53年9月開園。その公園は、運河が埋め立てられて造られたため、その時に石やレンガそしていろいろな産業廃棄物のようなものが土と混ざり、特に「水の広場」の樹木の下は、小石が土の表面に混ざり堅く、花や緑が育つ環境ではなかった。</p> <p>その上、公園利用者のトイレする場所になって、またゴミの捨て場になっていた。異臭・ゴミ・酔っ払い…そのような場所で、平成21年8月～1人で花壇作り「花ボランティア」に取り組み開始、2年後の平成23年8月『大通り公園水の広場愛護会』設立し、『環境美化運動』に取り組み7年目になる。</p> <p>①花を植えながら石ころや時にはうまっている大きな石を取りだして、まさにがれきの中に花を植え、やっと数年かかって、行政も協力のもと花や緑が増えたこと。          ②樹木の下にゴミがすてられなくなったこと。          ③公園内の通りのゴミも減ったこと。          ④酔っ払いやホームレスがいなくなったこと。          ⑤公園でたむろしている人達は、今では、サポーターである。          ⑥公園利用者が公園をきれいに利用することを心がけるようになったこと。          ⑦私達の活動に対して理解者が増えたこと。          ⑧近隣の病院等の患者さんが車いすなどで散歩するようになったこと。          ⑨通りがかりのみなさんが“「花」はいいねー”と激励するようになったこと。          ⑩日・祝日、朝・昼・夜、可能な限り花達をフォローした。          ⑪会長自身、妹が白血病で他界して落ち込んでいた時、活動を通して「花」と向き合えて元気になったこと。</p> <p>※10年以上前の『大通り公園』を知る人は確実に違いが比較できるであろう。特に「水の広場」は大変な環境でもあった。樹木の下にはゴミはあっても、人が手をかけた花や緑は（一部の区画を除き）一切なかった。7年前、1人で始めた「花ボランティア」は、心ある有志達がサポートしてくれたおかげで、時間と共に花や人々が応えてくれ、『環境美化』の理解者が増えた。</p> <p>●活動が、毎日新聞やタウンニュースに取り上げられた。</p>	

**市民の部**      **3 久下勇次郎(バタフライガーデンの会)**

推薦者名	横浜市立中尾小学校	
活動地域	旭区	
活動の目的やねらい	蝶が飛び交う自然豊かな環境を作り出し、中尾小学校の子どもたちの教育に寄与する。	
最近3年間の主な活動	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した植栽活動と花壇の整備（月3回の活動）</li> <li>・1年生野菜の土づくり</li> <li>・蝶の生態観察など3年生への理科学習支援</li> <li>・夏休みのバタフライガーデン教室開催</li> </ul>
	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した植栽活動と花壇の整備（月3回の活動）</li> <li>・1年生野菜の土づくり</li> <li>・蝶の生態観察など3年生への理科学習支援</li> <li>・幼稚園、保育園との交流</li> <li>・夏休みのバタフライガーデン教室開催</li> </ul>
	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した植栽活動と花壇の整備（月3回の活動）</li> <li>・1年生野菜の土づくり</li> <li>・蝶の生態観察など3年生への理科学習支援</li> <li>・幼稚園、保育園との交流</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花壇としての役割は定着しつつあるので、これを継続する。</li> <li>・バタフライガーデンを中心として、幼稚園、保育園と中尾小学校の交流がさらに発展する可能性を秘めた活動である。</li> <li>・本年度初めて、ルリタテハという蝶が羽化したという実績から生物の多様性にも寄与していく活動でもあると考える。</li> </ul>	

**市民の部** 4 鶴見「みどりのルート1」をつくる会

推薦者名	—	
活動地域	鶴見区	
活動の目的やねらい	鶴見区北寺尾交差点を中心に国道1号に沿った約1kmの民有地に植樹し、みどりアップを図ります。併せて、野鳥、昆虫に住みやすい環境を整え、子供たちにみどりの大切さを伝えていきます。	
最近3年間の主な活動	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①計画エリアの緑化構想</li> <li>②会の設立</li> <li>③横浜市と協定を締結</li> <li>④事業所7か所の緑化工事</li> <li>⑤維持管理活動の実施</li> </ul>
	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①事業所5か所の緑化工事</li> <li>②ノベルティの作製</li> <li>③木のネームプレートづくりを開催</li> <li>④緑と野鳥の観察会を開催</li> <li>⑤企業緑地講習会を開催</li> <li>⑥維持管理活動の実施</li> </ul>
	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①事業所1か所の緑化工事</li> <li>②ノベルティの作製</li> <li>③木のネームプレートづくりを開催</li> <li>④維持管理活動の実施</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 各事業所の造園設計を1社が大半を落札したことで全体に統一感のあるデザインが実現できました。また、樹種を統一することで一団の緑化ゾーンになりました。</li> <li>2 人と緑をつなぐため、工夫した植栽土留め、植栽地囲いを採用しました。</li> <li>3 参加事業者と近隣住民が一体となって緑化活動に取り組み、地域の連帯感ができつつあります。</li> <li>4 横浜市の玄関口である鶴見の国道1号に、当初の緑化構想どおりのみどりアップができました。</li> </ul>	

## 市民の部 5 戸塚桜セーバー

推薦者名	—	
活動地域	戸塚区	
活動の目的やねらい	市民自ら柏尾川を含む区内の桜の維持・保全活動等を行うことを目的とする。	
最近3年間の主な活動	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生のためのさくら楽校</li> <li>・ウナシー隊</li> <li>・とつかエコフェスタ</li> <li>・第4回とつかお結び広場</li> <li>・柏尾川フォーラムイベント</li> <li>・マリーゴールド植栽</li> <li>・柏尾川の桜カレンダー</li> </ul>
	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さくら楽校</li> <li>・ウナシーの謎解き広場</li> <li>・とつかエコフェスタ</li> <li>・第5回とつかお結び広場</li> <li>・柏尾川フォーラムイベント</li> <li>・柏尾川の桜等ガイド</li> <li>・柏尾川の桜ポストカード</li> </ul>
	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウナシーの謎解き広場</li> <li>・とつかエコフェスタ</li> <li>・第6回とつかお結び広場</li> <li>・柏尾川フォーラムイベント</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<p>会のスタートは行政の講座だったが、会を発足するにあたりどのような活動をしていくべきか何度も話し合い、役員や事務局という組織作りも試行錯誤しながら形を整えてきた。区民のみなさんへも、ホームページで開花情報や桜紀行、日々の活動を伝えるブログをとおして情報発信を行っている。また、柏尾川の桜の魅力を盛り込んだカレンダーやポストカードのような親しみやすい方法を検討し実現してきた。小学生との「落ち葉で堆肥作り」「柏尾川の桜のお話」などでは、環境面にも配慮した内容を盛り込み伝えてきた。</p>	

**市民の部**    **6 新治市民の森愛護会**

推薦者名	—	
活動地域	緑区、道志村 水源林保全	
活動の目的やねらい	新治に残された森を、人との新たな共生により、生き生きと蘇らせ、未来のこどもたちに新治の風土と、そこに根ざした里山文化を大切に引き継いでいくため、活動を通して豊かな緑と将来にわたる担い手を育て、魅力ある森づくりを進める。また、森づくりに共感する人々が心に描く森の姿を共有し、それぞれ協力して皆の森をつくる。	
最近3年間の主な活動	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森内の保全活動（委託・自主）</li> <li>・ 森内のパトロール（委託）</li> <li>・ 青色パトロール（自主）</li> <li>・ 園路・水路の整備（委託）</li> <li>・ こども森の日森体験（自主）</li> <li>・ にいはる森工房の運営（自主）</li> <li>・ 学校支援（自主）</li> <li>・ モニタリング（自主）</li> <li>・ 湿地管理と調査（自主）</li> <li>・ 外部保全活動（自主）</li> </ul>
	平成26年度	《同上》
	平成27年度	《同上》
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<p>・ 弊愛護会の会員は年間計画に沿って活動し、週1回の活動日には40人余りが参加（年間延べ2,100人余り）し、森の保全活動に励み、来森者が気持ちよく散策できる園路、森内、竹林の整備、水辺の環境整備を行い、訪ずれる人に自然豊かな森として評価され喜ばれています。来森者は年々増加し注目される市民の森のひとつとなっています。</p> <p>・ 近隣の学校との連携にも力を入れ、こどもたちに森を身近なものとし、森の豊かさ、大切さを学んでもらい、強いては、郷土愛に芽生えてもらい、将来の担い手になってもらう事を期待しています。</p> <p>・ 森内から搬出した材の有効活用の一環として、池ぶち広場に設置の古くなったイス・テーブルを更新。</p> <p>・ 保全の一環として、青色灯を点滅させての車による森内及びその周辺道路の夜間巡回パトロールを実施し、不審な事件が発生しないように取り組んでいます。</p> <p>・ 会員は高齢者が大半ですが、自然の中で、健康に、少しでも地域のために貢献出来ている事に喜びを感じ、積極的に活動しています。</p>	

**市民の部** 7 特定非営利活動法人 ホタルのふるさと瀬上沢基金

推薦者名	—	
活動地域	栄区、港南区	
活動の目的やねらい	緑と豊かな生態系の里山の原風景が残り 貴重な文化的遺跡も散在する瀬上沢の緑を、子供達の世代に引継いでいける事を願って、市民の皆様のご協力と共に地元の方々にお教え頂きながら、里山の緑と田畑の復活保全・地区文化と遺跡の保全のために 緑地の取得・借用や維持管理、環境保全、体験啓発活動に取り組んでいます。	
最近3年間の主な活動	平成25年度	ガイドツアー6回 クリーンアップ6回 会報発行2回 連絡会6回 神奈川県共感発信プロジェクト参加 鎌人いち場出展
	平成26年度	ガイドツアー6回 クリーンアップ6回 会報発行2回 連絡会6回 瀬上沢の保全・環境・歴史を考えるシンポジウム開催 鎌人いち場出展 横浜栄高校文化祭出展
	平成27年度	ガイドツアー3回 クリーンアップ6回 会報発行2回 連絡会6回 Earthday Tokyo2015 出展 基金アースデイ実施3回 鎌人いち場出展
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立当時の副市長からの助言もあり、市民団体として責任ある活動を目指し基金を設立したこと</li> <li>・継続的活動を行うため法人化、特定非営利活動法人取得、その後認定NPO法人を取得したこと</li> <li>・多くの方からの寄付を得ていること</li> <li>・身近な自然を守るための情報発信、自然の魅力を幅広く知らせていく手法等工夫していること</li> <li>・保全を目指している地域は、神奈川県自然保護協会が示した生物多様性ホットスポットに指定されていること</li> <li>・約13000人の寄付者名簿をもっていること</li> </ul>	



推薦者名	—	
活動地域	横浜市全域	
活動の目的やねらい	<p>「サンタとなって横浜に笑顔をプレゼント」をコンセプトにさまざまな社会貢献活動（清掃活動など）を展開しています。</p> <p>普段はなかなか地域や街と触れ合うことのない企業人や学生がサンタになって活動をすることで、街へ愛着を持ち、活動をしていく一歩へとつながっていきます。</p>	
最近3年間の主な活動	平成25年度	横浜サンタプロジェクト サンタが街にやってきました！2013
	平成26年度	横浜サンタプロジェクト サンタが街にやってきました！2014
	平成27年度	横浜サンタプロジェクト サンタが街にやってきました！2015
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<p>企業やNPO、住民がお互いに得意なスキルや物、アイデアを持ち寄って企画を運営することで、1つの組織ではできない活動を展開している点が大きな特色です。また、活動の中心地であるみなとみらいの地域性を活かし、地域で働く企業やNPOを巻き込み、環境活動・地域活動への参加のきっかけを作っています。</p> <p>また、活動自体はイベントなので、1日で終了しますが、活動を作るプロセスでは街を歩いて地域のゴミの現状を調査したり、地域清掃に参加するなど地道な活動や議論を積み上げ、1年間を通して企画を実現します。</p> <p>多様な主体が関わり、活動をしていくプロセスも街に関わるにはとても大事なことで、この活動がきっかけとなって、いくつもの発展的活動が生まれています。</p>	

**企業の部** 1 イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北

推薦者名	都筑区役所
所在区	都筑区
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の製品の販売、輸出入、配送及び倉庫管理業務</li> <li>①家具及びインテリア用品雑貨</li> <li>②家庭用電気製品</li> <li>③草花、観葉植物などの植物</li> <li>・ 家具及びインテリア用品雑貨に関するコンサルティング</li> <li>・ インターネット、その他通信を利用した通信販売業</li> <li>・ 不動産の売買、賃貸及び管理</li> <li>・ 飲食店の経営</li> <li>・ 食料品及び飲料の製造、加工及び販売</li> <li>・ 酒類の販売</li> <li>・ 託児所の経営</li> <li>・ ベビーシッター業務の請負</li> </ul>
環境に関する 基本理念・ 自己宣言等	<p>イケアは「より快適な毎日を、より多くの方々に」というビジョンのもと、より持続可能な環境と社会を実現するため、サステナビリティ戦略である「People&amp;Planet Positive (ピープル・アンド・プラネット・ポジティブ)」を掲げています。</p> <p>IKEA 港北では、「サステナブルな暮らし」「エネルギーと資源」「人とコミュニティ」をテーマに、様々な環境と社会への取組を展開してきました。</p>
成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横浜市との連携協定</li> <li>・ 照明商品の全 LED 化</li> <li>・ MSC/ASC 認証シーフードの販売</li> </ul>
審査にあたり、最も 注目してもらいたい 取組・PRポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームファーニッシング企業と横浜市が環境に特化した連携協定の締結は、今後も他の企業へ波及するモデル的取組であることが考えられます。</li> <li>・ 本協定で提携する4分野（1 省エネルギー対策の推進に関すること、2 再生可能エネルギー等の導入・利用拡大に関すること、3 地産地消及び食育の推進に関すること、4 その他、持続可能な社会をめざした取組に関すること）において、横浜市とは今後もさらなる取組を推進していきます。</li> <li>・ 特に移動式水素ステーションの設置は大規模商業店舗では初の取組となり、水素普及の上でも貢献する取組です。いずれも、イケア港北が中心となり、イケア・ジャパンと調整することで、実現したことです。</li> <li>・ イケアはビジネスにおける全ての部署およびプロセスにおいて環境と社会へポジティブな影響を与えるため、幅広い取り組みをしています。</li> </ul>

**企業の部**      **2 石井造園株式会社**

推薦者名	—
所在区	栄区
事業内容	造園・土木・石・しゅんせつ・とび土工・舗装・水道施設工事業 壁面緑化工事・落書き消し
環境に関する 基本理念・ 自己宣言等	基本理念 企業活動を通して、幸せを共有する企業を目指す。 CSR方針[3]の理念 緑を扱う者として地球環境の改善に貢献します。
成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化基金</li> <li>・環境教育</li> <li>・街路樹（緑陰）の大切さの理解、協力</li> <li>・苗木の無料配布</li> <li>・カーボンオフセット</li> </ul>
審査にあたり、最も 注目してもらいたい 取組・PRポイント	<p>2008年から独自の緑化基金を始め、地域の方が150人ほど集うCSR報告会、150万本植樹行動（現在はみどりアップ計画）の一環とした苗木の無料配布など、地域社会を軸にしたCSRを続けてまいりました。</p> <p>造園業という狭い商圏の中でナンバー1になるためには、顧客と中長期的な関係を築くことが重要です。そのためにできることの中に、地域貢献に軸足を置いたCSRへの取り組みがあります。石井造園では「ついでに、無理なく、達成感のある活動」を合言葉としてCSRに取り組んでいます。本業を通じた活動で、多くのステークホルダーに応えるため、かつ達成感のあることに取り組もう、という意味です。会社は地域経済の発展の中にこそ、自社の繁栄があると信じております。地域社会は個人や企業の真の価値を見出し、努力や成果に対し正当かつ公平な評価をする基準を持ち合わせていなければなりません。</p> <p>以上のような信念のもと、経営にあたっております。</p> <p>CSR活動を通し、お客様や社会の満足度をあげることはもちろんですが、それだけではなく従業員の満足度が向上しているとも感じています。本業はISO9001（平成17年度）や横浜市優良工事施工会社（平成24,27年度）を取得するほどのスキルがあることに加え、CSR活動により世の中に貢献しているという喜び：達成感もうまれます。このようにライフワークバランス：職場環境の改善に努めたことから、よこはまグッドバランス賞（平成25,26年度）、神奈川県子ども子育て支援推進事業の最上位認定（平成24年度）をいただきました。</p> <p>これからもより一層、周囲へ良い影響を与えられるようなCSR活動及び環境活動を横浜で推進していきます。</p>

**企業の部**      **3 株式会社大倉物産**

推薦者名	—
所在区	金沢区
事業内容	省力装置機器、物流・荷役機器、駆動・制御機器、切削・測定・資材・金型・工作機器、環境・太陽光発電・LED・住宅機器、床暖房システム、防災機器などの商品の販売とメンテナンス
環境に関する 基本理念・ 自己宣言等	<p>1) 環境基本方針</p> <p>地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で地球環境の保全に配慮して行動することを理念とし、環境汚染防止及び環境保全活動の継続的改善・向上を図ること、法規制の順守など、5つの方針のもとに企業活動を進めています。</p> <p>2) 基本精神と理念</p> <p>当社は、基本精神として「愛と気力と理性」を確立して地球環境と人を大切にする企業、「天に感謝、地に繁栄、人に満足・安心」のもとで、従業員は商人の誇りを持ち集まり、「正直と勤勉」を信条にして経営品質向上のために次の基本理念、企業理念、経営理念の三理念で取り組んでいます。</p> <p>2) - 1 基本理念</p> <p>顧客本位、独自能力向上、社員重視、社会との調和に努めます。</p> <p>2) - 2 企業理念</p> <p>経営者・役員を始め一人ひとりが道義国家社会の一員として自覚し、国富と自他の幸福に倫理実践して事業活動を行います。</p> <p>2) - 3 経営理念</p> <p>感謝、繁栄、満足・安心を信条に、地域社会に貢献し企業価値の向上に努め遂行します。</p>
成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組	<p>(1) E A 2 1 「エコアクション21」</p> <p>(2) L E D製品販売及び工事</p>
審査にあたり、最も 注目してもらいたい 取組・PRポイント	<p>(1) L E D製品販売及び工事</p> <p>L E D製品販売及び工事において、地元商店街の電気店や工事店と事業提携を進めています。今後、L E D化が進む中で地元の住宅団地や各種公共施設、工場からの受注も増えていくと思われ、それに伴って地元の電気店や工事店が活性化し、環境改善だけでなく、地元経済にもプラス効果が期待できます。</p> <p>(2) 地元小学校に省エネの出前授業</p> <p>N P O法人の活動として地元市立金沢小学校の生徒を対象に環境教育の一環として省エネの出前授業を実施しています。鉄は熱いうちに鍛えよとの諺がありますが、小学生の段階から環境という視点で身近な活動を行っていくことの大切さを理解してもらいます。学校側の協力を得て今後とも出前授業を行ってまいります。</p>

**企業の部**      4 京セラコネクタプロダクツ株式会社

推薦者名	—
所在区	緑区
事業内容	コネクタ、それに伴う各種工具・自動圧接機の研究開発・製造・販売
環境に関する 基本理念・ 自己宣言等	<p>経営理念：全従業員の物心両面の幸せを追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること。</p> <p>経営思想：社会との共生。世界との共生。自然との共生。共に生きる（LIVING TOGETHER）ことをすべての企業活動の基本に置き、豊かな調和をめざす。</p>
成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太陽光発電の利活用</li> <li>・ グリーンカーテン</li> <li>・ 環境出前授業</li> <li>・ 京セラの森づくり活動</li> </ul>
審査にあたり、最も 注目してもらいたい 取組・PRポイント	<p>弊社は、コネクタの製造・販売メーカーとして、人の心と心の強い結びつき、その強く正しい心の拠り所を持った集団から生まれ出る価値ある製品づくりと、人間のすばらしい心をベースとした経営に基づき、世の中の進歩発展に常に貢献し続ける企業集団でありたいと考えます。</p> <p>環境活動におきましても、社員の自発的な行動を促し、創意工夫を凝らした改善活動を継続実施できることを目指しており、これらの活動をグループ企業での連携・展開や、地域・行政様、他企業様と連携し推進していきたいと思っております。</p>

**企業の部**      **5 高梨乳業株式会社**

推薦者名	—
所在区	保土ヶ谷区
事業内容	牛乳・アイスクリーム・生クリーム・ヨーグルトなど乳製品全般の製造並びに販売
環境に関する 基本理念・ 自己宣言等	<p>タカナシ環境方針制定（2003年12月）</p> <p>わたくしたちは、牛乳・乳製品を中心とする食品の製造や販売を通じて皆様の健康づくりと新しい食文化づくりに奉仕する企業として、健やかな成長の糧となる自然の恵みが末永く子孫に受け継がれるよう、環境負荷の低減と地球環境保全のために以下のことに努力して参ります。</p> <p>① 限りある天然資源を有効活用し、廃棄物の削減に取り組むと共に可能な限りのリサイクルを推進します。</p> <p>② 環境負荷に配慮した商品開発に努めます。</p> <p>③ 関連法規制や協定を遵守し、環境汚染の予防と地域共生に努力します。</p> <p>④ 環境目的及び目標を設定し、実行管理すると共に内部環境監査を行い、定期的及び必要に応じて見直しをして、継続的改善を図ります。</p> <p>⑤ この環境方針を、全従業員に周知徹底を図り、必要に応じて社外に公開いたします。</p>
成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組	紙パックリサイクル推進活動
審査にあたり、最も 注目してもらいたい 取組・PRポイント	<p>紙パックは主に針葉樹を原料としたバージンパルプを使用しており、繊維が長く大変丈夫なため、再生利用に向いています。しかしながら、表面をプラスチックでラミネートしており、プラスチック部分を取り除く工程をもっている古紙再生メーカーでないと、再生できないため、紙パックのみでの分別回収が必要となります。業界独自の調査では家庭から排出される紙パックは約1/3しか再生利用されておらず、大半は焼却処分されているのが現状です。</p> <p>なぜ「洗って開いて乾かさないといけないの？」や「紙パックだけで回収に出していただく」ことなどについて説明をしておりますが、知らない方々がまだまだ多く、また、「1Lの牛乳パック6枚でトイレットペーパーを1個作ることが出来る」と聞くと「明日から分別して回収に出します」とありがたい言葉もたくさんいただいております。今後も、継続して出展させていただき、紙パック回収率に貢献できるよう努めてまいります。</p> <p>出展に際しましては、弊社の横浜市内事業所の有志が集まり、練習を重ね、見た目にも真っ白できれいなハガキに仕上げる技術を身につけて、資源としての価値を伝えております。また、実際に古紙再生メーカーへ見学に行き、再生トイレットペーパーやティッシュペーパーを作るための紙パックが不足している現状を知り、紙パックを容器として利用している企業として、ぜひとも継続して取り組んでいきたいと考えております。</p>

**企業の部**      **6 日本電技株式会社 横浜支店**

推薦者名	—
所在区	神奈川区
事業内容	ビル空調等の自動制御システムの設計・施工・調整・保守、各種自動制御機器類の販売
環境に関する 基本理念・ 自己宣言等	<p>「環境方針」</p> <p>基本理念 地球環境保全への取り組みは企業の存在と活動に必須の条件であることを認識し、省資源、省エネルギー化に積極的に取り組みます。</p> <p>行動指針 1 省資源・省エネの推進    2 環境管理の継続・維持・改善    3 法規制の順守</p>
成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組	<p>①環境社会検定試験の受験推奨</p> <p>②事務用品等のグリーン購入徹底</p> <p>③環境活動用品の配布</p>
審査にあたり、最も 注目してもらいたい 取組・PRポイント	<p>私たちの活動、取組みは、大企業から見れば非常に小さなものだと思います。しかし環境の取組みは、一人ひとりが意識を持って活動していくことで、大きな力になるものであると思います。</p> <p>そういった考えのもと着実に環境活動の裾野を広げてまいりました。その中でも注目していただきたい取組みは以下のとおりです。</p> <p>①社員の「環境社会検定試験（通称 eco 検定）」合格への取組み 私たちは、環境活動を促進するためにはまず、社員の環境意識を高めることが重要と考え、東京商工会議所が主催する「eco 検定」の取得を推進しています。これまでの受験で社員 49 名のうち 17 名合格がおり、引き続き全員合格に向けて、勉強会を開催するなどの取組みをしています。</p> <p>環境への意識が社会的に高まり、多くの製品やサービスが環境を意識したものに変わっていく中で、当社においてもビジネスを考える上で、一人ひとりが環境に関心を持つ必要があると考えます。</p> <p>また社内外で様々な環境貢献活動を推進、維持するにあたって社員の環境意識の高まりが重要だと思います。「eco 検定」はその受験のための学習により、環境に関する幅広い基本知識を学ぶ事ができ、社員の環境意識を高める事に役立っております。実際のところ、合格した社員の環境への意識が高まって、環境活動に積極的に参加する様子も見られますので、今後も積極的に取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>②社外環境活動の推進 これまでは社外における環境活動については、お取引先団体が主催する海岸清掃行事に参加する等の取組みが中心でしたが、2015 年は、当社環境委員会が中心となり、自主的に海岸清掃を企画し実施いたしました。</p> <p>当社社員やそのご家族、下請け協力会社の社員が集まって社外環境活動を行うことができたのは、社員一人ひとりの環境貢献意識が高まった結果だと思っております。</p> <p>今後も継続的にこのような社外環境活動を行い、恒例行事として定着させていきたいと考えております。</p>

**企業の部** 7 株式会社ブリヂストン 横浜工場

推薦者名	—
所在区	戸塚区
事業内容	ゴム、ウレタン、樹脂等を原料とした工業用品、化成品、電材(OA部品等)、建築用品、直需部品等の開発、製造
環境に関する 基本理念・ 自己宣言等	環境宣言 「未来のすべての子どもたちが『安心』して暮らしていくために・・・」という変わらぬ思いを掲げ、活動に取り組んできました。
成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組	社会貢献活動
審査にあたり、最も 注目してもらいたい 取組・PRポイント	長年にわたる環境活動により、活動内容を拡大・深化されることで、従業員が積極的に活動に取り組み、工場全体で環境意識の醸成を図っています。 具体的には、1987年当時は、主任会を中心とした清掃 → 近年は従業員主導型「工場活性化プロジェクト」清掃 → 地域交流型の「柏尾川魅力づくりフォーラム」に参画して清掃 → 2011年からはハマロード・サポーターに登録し市と共同で実施中です。



**企業の部**      **8 株式会社横浜ビール**

推薦者名	—
所在区	中区
事業内容	ビールの製造・販売 レストラン・カフェの運営
環境に関する 基本理念・ 自己宣言等	「水を考えることは、命を考えること」 ビール作りに、ひいては私達の生活を支える「水」 当たり前のように使用している横浜市の「水」その歴史と先人たちの血のにじむよ うな努力、現在の横浜の水源の村である道志村の現状等を、実際に見てそれを具体 的な活動として実践し、また今後も継続していく。
成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組	①生産者訪問 ②意味のあるビール造り
審査にあたり、最も 注目してもらいたい 取組・PRポイント	横浜市水道局様及び川井浄水場様と連携をして、道志村を水源とする横浜の「水」 でビール造りをしています。限定醸造ではありますが、川井浄水場様から給水車に て、ほぼ 100%に近い道志村の美味しい水で造るビールを通して、この水の素晴ら しさを多くの方に知って頂きたいとの思いがあります。 そこから突き詰めていくと、現在の道志村の現状を知る事ができました。 何度も足を運び、村の方や、町おこし隊の皆さんと会い、話し、そこで我々にでき ることは何か？ 実際に間伐体験も行い、村の方達と語り、村の食材も頂いて、そこで我々にでき ることは何か？ 決して、直接的に寄付をしたり、直接的に間伐に行くことも、大事ですが、それよ りも町のビール屋、町のレストランとしてやるべき事は？ そう考えた結論は、こ の水源の村の素晴らしさを「人」と「食材」を通して、横浜の多くの方に知って頂 くこと。我々だけでなく横浜で飲食店を営む多くの仲間にも声をかけて行なったの が、「道志村 Night 横浜の水と心の故郷 道志村秋の清流の集い」でした。 そして今後も我々の小さな力が、少しずつでも広がっていき、道志村の素晴らしさ を一人でも多くの方に知ってもらうことで、横浜と道志村がより強い絆で結ばれ、 道志村が活気づき、村を森を人を、これからも大事に守っていけることに繋がる事 が、私たちの望みであり、希望でもあります。

児童・生徒・学生の部

1 横浜市立舞岡中学校 科学部

推薦者名	—	
活動範囲	学校内、学校外	
活動の目的やねらい	自然に親しみながら、科学を学ぶ	
最近3年間の主な活動	平成25年度	舞岡川のハグロトンボ調査 生息数と消長調査
	平成26年度	舞岡川のハグロトンボ調査 生息数と消長調査と縄張り行動調査 横浜市こどもエコフォーラムで研究発表 川の日ワークショップで研究発表（於東京農業大学）
	平成27年度	舞岡川のハグロトンボ調査 生息数と消長調査と縄張り行動調査 横浜市こどもエコフォーラムで研究発表
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<p>1つの河川でつながる、小・中・高が、共通のテーマで連携し、環境学習を展開していること。</p> <p>環境学習というテーマで発達段階の違う児童生徒が、一つの対象（ハグロトンボ）を手がかりに調査・分析をすることにより、多角的な視点・視野からの学びを共有できること。</p> <p>高校生と一緒に学習に取り組む場面をつくることによって、異年齢、異校種の集団の中で、小・中学生が将来を考えるきっかけを作ることができる。</p>	

## 第 23 回横浜環境活動賞 今後の予定

日 程（予定）	内 容
～3月	<p><b>受賞者の正式決定</b></p> <p>応募者の皆様全員に文書でお知らせいたします。 あわせて、受賞者の皆様には、事例集(活動紹介パネル)の原稿作成を依頼しますので、ご対応をお願いいたします。</p> <p><b>受賞者決定の記者発表</b></p>
6月 14 日(火)午後	<p><b>表彰式 ・ ポスターセッション （会場:未定）</b></p> <p>表彰式を行います。表彰式終了後、活動紹介パネルを掲示し、受賞者同士の情報交換・交流会を行います。ご出席をお願いいたします。</p>

横浜環境活動賞 受賞者一覧

資料9

※第13回までの名称は「横浜環境保全活動賞」

第1回・5年度	市民	横浜にとんぼを育てる会 帷子小ウォッチングクラブ モルフォ生物同好会 横浜・ゴミを考える連絡会 横浜自然観察の森友の会 大岡川の再生をすすめる会	第7回・11年度	市民	あおばく・川を楽しむ会 アゲイン瀬谷 和泉川源流を楽しむ会 港南台自然観察クラブ・クロロ ソフトエネルギープロジェクト
	企業	日本電気株式会社横浜事業場 東洋製罐株式会社横浜工場 株式会社東芝生産技術研究所 生活協同組合コープかながわ		企業	石川島播磨重工業株式会社横浜事業所 株式会社東芝横浜事業所 株式会社フジタ横浜支店 武蔵工業大学環境情報学部
第2回・6年度	市民	海をつくる会 鴨池公園愛護会 けやきが丘森林愛護会 横浜市牛乳パックの再利用をすすめる連絡会 寺家ふるさと村体験農業振興組合 フリーマーケット「緑区民ふれあい市場」緑実施世話人会	第8回・12年度	市民	大岡川 Fun Club 市沢・仏向の谷戸に親しむ会 みどりの学校 横浜自然観察の森友の会 雑木林ファンクラブ 早淵川をかなでる会 上山ふれあいの樹林愛護会
	企業	相鉄ローゼン株式会社 東京電力株式会社神奈川支店鶴見支社 日本鋼管株式会社鶴見製作所		企業	神奈川機器工業株式会社 本社・工場 東京ガス株式会社 環境エネルギー館 東京ガス株式会社 根岸工場 東京電力株式会社 西火力事業所横浜火力発電所 日立湘南電子株式会社 本社工場 三菱重工業株式会社 横浜製作所
第3回・7年度	市民	三ツ沢せせらぎ緑道のほたるを育てる会 自然に学ぶ会 ファイバーリサイクルネットワーク 中田ふれあいの樹林愛護会 峰岡町二丁目自治会	第9回・13年度	市民	荒井沢市民の森愛護会 かなざわ森沢山の会 宮沢の森愛護会 特定非営利活動法人 よこはま水辺環境研究会
	企業	大成建設株式会社横浜支店 ムラタ計測器サービス株式会社 株式会社イトーヨーカ堂(上永谷店他8店) 生活クラブ生活協同組合・神奈川		企業	株式会社CRC総合研究所データセンター事業部 川本工業株式会社 株式会社 サカクラ 株式会社 リコー中央研究所 株式会社 ニコン横浜製作所
第4回・8年度	市民	戸塚ホテル研究会 恩田の谷戸ファンクラブ ラブリバートリップ大岡川 並木谷堆肥利用組合 ふるさと侍従川に親しむ会	第10回・14年度	市民	野庭馬洗川自然愛護会 みどり・川と風の会
	企業	株式会社エフピコ横浜営業所 キンビール株式会社横浜工場 日本石油精製株式会社根岸製油所 みなとみらい21リサイクル推進協議会		企業	日本発条株式会社 横浜事業所 東京ガス株式会社 扇島工場 株式会社 ダイイチ 済生会横浜市南部病院
第5回・9年度	市民	エコ・ライフいずみ リフォーム横浜会 泉の森ふれあい樹林愛護会 白幡緑の会 横浜市水取沢小学校PTA牛乳パック・リサイクルの会 港北区牛乳パック回収グループ	第11回・15年度	市民	EM花の会 神奈川森林エネルギー工房 北八朔公園愛護会 港北ニュータウン緑の会 横浜植物会
	企業	株式会社日立製作所横浜地区 株式会社オオスミ ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 三菱地所株式会社横浜事業部(横浜ランドマークタワー)		企業	株式会社 竹中工務店横浜支店 工藤建設株式会社 株式会社 ユニキャット 株式会社 アペックスディーピーエフシステム 横浜市資源リサイクル事業協同組合 綱島商店街連合会
第6回・10年度	市民	鶴見川を再発見する会 HAB21イルカ研究会 松の川遊歩道(緑道)の会 白根竹の森運営委員会 港北くらしの研究会 相沢川を考える会	第12回・16年度	市民	和泉の森を育む会 梅田川水辺の楽校協議会 桜ヶ丘・森の仲間たち 野島自然観察探見隊
	企業	株式会社テルム本社 株式会社熊谷組横浜支店 株式会社日立製作所情報通信事業部 横浜市廃冷蔵庫フロン回収・処理推進協議会 松下通信工業株式会社(佐江戸工場・綱島工場)		企業	東京電力株式会社 西火力事業所 南横浜火力発電所 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 横浜支社 日本ビクター株式会社 本社・横浜工場 タカナン乳業株式会社 横浜工場 日産自動車株式会社 横浜工場

第13回・17年度	市民	和泉川東山の水辺愛護会 瀬谷市民の森愛護会 新治市民の森愛護会 神奈川環境学習リーダー・エネルギー会 横浜メダカの会	第17回・21年度	市民	新井町公園愛護会 飯田雀のお宿 まゆの会 NPO法人 Waveよこはま こどものためのオープンハウス 日本の竹ファンクラブ 南瀬谷中学校PTA 洋光台まちづくり協議会 青少年夢環境部会
	企業	東京電力(株)神奈川支店 (株)京急百貨店 フェリス女学院大学 千代田化工建設(株)		企業	株式会社岡村製作所 企画本部情報システム部
第14回・18年度	市民	いかだで遊ぶ谷本川実行委員会 和泉川中央水辺愛護会 カマリヤン倶楽部 上矢部まちづくりの会 亀谷戸せせらぎ水辺愛護会 鴨居原市民の森愛護会 ナウシカの会 平潟湾クリーンアップキャンペーン実行委員会 富士見水辺愛護会 保土ヶ谷フリーマーケット実行委員会 本郷ふじやま公園運営委員会 特定非営利活動法人 ヨコハマ倉造空間 特定非営利活動法人 楽竹会	第18回・22年度	市民	「大賞」 市沢・仏向の谷戸に親しむ会 「実践賞」 北八朔公園愛護会 いたち川と親しむ会 瀬上の森パートナーシップ(SMP) 鴨居駅周辺まちづくり研究会 鶴見川下流ネットワーク・鶴見 都田江川水辺愛護会 若葉台連合自治会 瀬谷環境ネット 奈良川源流域を守る会 福田誠一郎
	企業	東京ガス株式会社 神奈川支店 若築建設株式会社 横浜支店		企業	「大賞」 株式会社大川印刷 「実践賞」 横浜消火器株式会社 株式会社 横浜フリースポーツクラブ 岩井の胡麻油株式会社 スーパーホテル横浜・関内 旭硝子株式会社 中央研究所 株式会社 野毛印刷社 東京電力株式会社 横浜支社
	児童・生徒・学生	上矢部まちづくり子ども実行委員会 ガールスカウト神奈川県第8団 関東学院大学・環境サークルHEP(ヘップ) 横浜市立大道小学校・ふるさとの水辺クラブ 横浜市立西柴小学校・西柴アマモ隊 武相中学高等学校・生徒会 横浜市立山元小学校・農園委員会		児童・生徒・学生	「大賞」 横浜市立汐見台中学校・環境美化委員会と全校生徒 「実践賞」 横浜市立朝比奈小学校・わくわくホテル池守り隊
	市民	磯子区環境を考える会 長津田小学校野草園ボランティア 堀割川魅力づくり実行委員会 もえぎ野ふれあいの樹林愛護会 横浜野菜推進委員会		市民	「大賞」 特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク 「実践賞」 海をつくる会 鶴見川舟運復活プロジェクト 松の川遊歩道(緑道)の会 めっちゃどろクラブ
第15回・19年度	企業	国立大学法人横浜国立大学 パナソニック・モバイルコミュニケーションズ(株)佐江戸事業所	第19回・23年度	企業	「大賞」 キリンビール株式会社 横浜工場 「実践賞」 生活協同組合連合会 ユーコープ事業連合 トレッサ横浜
	児童・生徒・学生	下永谷小学校卒業生クラブ 鶴見大学生物部 横浜国立大学附属横浜中学校ブルーアースサミット		児童・生徒・学生	「実践賞」 横浜市立十日市場中学校、及び、地域交流事業実行委員会 横浜市立南中学校 アジサイクラブ 横浜市立南希望が丘中学校 ビオトープ特別委員会
第16回・20年度	市民	金沢八景—東京湾アマモ場再生会議 上郷森の会 栄さとやまのりの会 大昔根の自然を楽しむ会 同愛会リプラス 獅子ヶ谷緑地保全会 関ヶ谷市民の森愛護会	第19回・23年度	市民	「大賞」 特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク 「実践賞」 海をつくる会 鶴見川舟運復活プロジェクト 松の川遊歩道(緑道)の会 めっちゃどろクラブ
	企業	前田建設工業株式会社 横浜支店 有限会社 マルニ商店		企業	「実践賞」 横浜市立本郷中学校科学部 戸塚まつり準備会 金沢八景クラブ
				児童・生徒・学生	「生物多様性特別賞」 特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク 横浜市立南希望が丘中学校 ビオトープ特別委員会

第20回・24年度	市民	<b>「大賞」</b> トンボはドコまで飛ぶかフォーラム <b>「実践賞」</b> あおば学校支援ネットワーク あおば発エコ大作戦実行委員会 大塚・歳勝土遺跡公園愛護会 トンボみちファンクラブ ファイバーリサイクルネットワーク 緑区霧が丘六丁目自治会 弥生台のせせらぎとホテルを守る会 横浜市都田第一土地改良区「不法投棄やめさせ隊」 特定非営利活動法人 楽竹会	第22回・26年度	市民	<b>「大賞」</b> 慶應義塾大学・日吉丸の会 <b>「実践賞」</b> 一本橋メダカ広場水辺愛護会 上笹下地区竹の子育成の会 グリーンサポーターズ・いそご 中川ルネッサンスプロジェクト会 大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会
	企業	<b>「大賞」</b> リスト株式会社 <b>「実践賞」</b> 生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ新横浜本部		企業	<b>「大賞」</b> 横浜市立大学環境ボランティア StepUp ↑ <b>「実践賞」</b> フェリス女学院大学 エコキャンパス研究会
	児童・生徒・学生	<b>「大賞」</b> 横浜市立戸部小学校 とべエコクリーン委員会 <b>「実践賞」</b> 横浜市立荻が谷中学校 環境活動部 横浜市立新羽中学校 自然科学部 横浜市立三保小学校		児童・生徒・学生	<b>「大賞」</b> 横浜市立大学環境ボランティア StepUp ↑ <b>「実践賞」</b> フェリス女学院大学 エコキャンパス研究会
		<b>「生物多様性特別賞」</b> トンボはドコまで飛ぶかフォーラム			<b>「生物多様性特別賞」</b> 慶應義塾大学・日吉丸の会
	市民	<b>「大賞」</b> 新横浜町内会 <b>「実践賞」</b> 泉区農業応援隊 NPO法人 海の森・山の森事務局 青少年みどり遊楽舎 綱島バリケン島プロジェクト 特定非営利活動法人こどもりクラブ 水辺愛護会帷子川はふるさとの川の会 横浜緑の推進団体港北区連絡会 (「皇帝ダリアを咲かせようin港北プラス1」)		市民	<b>「大賞」</b> 新横浜町内会 <b>「実践賞」</b> 泉区農業応援隊 NPO法人 海の森・山の森事務局 青少年みどり遊楽舎 綱島バリケン島プロジェクト 特定非営利活動法人こどもりクラブ 水辺愛護会帷子川はふるさとの川の会 横浜緑の推進団体港北区連絡会 (「皇帝ダリアを咲かせようin港北プラス1」)
第21回・25年度	企業	<b>「大賞」</b> プリンズ電機株式会社 <b>「実践賞」</b> 株式会社ノーリツ 神奈川支店 株式会社ファンケルスマイル(特例子会社) 生活協同組合ユーコープ 大成建設株式会社技術センター 三井不動産株式会社 横浜支店 三井不動産レジデンシャル株式会社 横浜支店	企業	<b>「大賞」</b> プリンズ電機株式会社 <b>「実践賞」</b> 株式会社ノーリツ 神奈川支店 株式会社ファンケルスマイル(特例子会社) 生活協同組合ユーコープ 大成建設株式会社技術センター 三井不動産株式会社 横浜支店 三井不動産レジデンシャル株式会社 横浜支店	
	児童・生徒・学生	<b>「大賞」</b> 横浜市立山下みどり台小学校 <b>「実践賞」</b> 県立神奈川総合高等学校エコ局 横浜市立大学環境ボランティアStepUp ↑ 横浜市立矢向小学校ビオトープ委員会	児童・生徒・学生	<b>「大賞」</b> 横浜市立山下みどり台小学校 <b>「実践賞」</b> 県立神奈川総合高等学校エコ局 横浜市立大学環境ボランティアStepUp ↑ 横浜市立矢向小学校ビオトープ委員会	
		<b>「生物多様性特別賞」</b> 水辺愛護会帷子川はふるさとの川の会		<b>「生物多様性特別賞」</b> 水辺愛護会帷子川はふるさとの川の会	

市民の部(136)、企業の部(93)、児童等の部(32)  
 合計261団体